

富岡町
男女共同参画まちづくり基本計画
策定に係るアンケート調査

－調査結果報告書－

令和6年3月

富岡町 教育委員会 生涯学習課

<目 次>

I 調査概要.....	1
II 調査結果.....	2
1 ご自身について.....	2
1-1 性別.....	2
1-2 年齢.....	2
1-3 職業.....	3
1-4 居住地域.....	3
1-5 結婚の経験.....	4
1-6 共働きであるか.....	4
1-7 子どもの有無.....	5
2 男女の地位や生き方について.....	6
2-1 各分野の中での男女の地位の平等さ.....	6
2-2 家事の分担.....	7
2-3 結婚、家庭、離婚に関する考え方.....	10
2-4 男女の望ましいと思う生き方.....	17
3 子育て・教育について.....	19
3-1 子育てについての意見.....	19
3-2 子どもにどの程度の教育を受けさせたいか.....	24
3-3 男女平等の社会を実現するため、学校教育の場で力を入れたらよいこと.....	25
4 介護について.....	26
4-1 家族の介護が必要な場合の対応.....	26
4-2 自宅で介護する（している）場合の主な介護者.....	27
5 仕事と私生活について.....	29
5-1 仕事の内容や待遇面等での女性と男性は平等だと思うか.....	29
5-2 仕事と生活についての考え方（理想）と現実（現状）.....	32
6 女性の社会進出について.....	34
6-1 女性が職業を持つことについての考え方.....	34
6-2 育児休業制度の利用.....	35
6-3 女性が働き続けるために特に必要なこと.....	38
6-4 女性が政治・経済・地域などの 各分野のリーダーになるために必要だと思うこと.....	39
6-5 政治・経済・地域などの 各分野で女性のリーダーを増やすときに阻害となるもの.....	40
7 人権に関することについて.....	41
7-1 女性の人権が尊重されていないと感じること.....	41

7-2	男女が生涯心身共に健康であるために大切だと思うこと	42
8	暴力に関することについて	43
8-1	夫婦・パートナーの間で暴力にあたると思うこと	43
8-2	配偶者や恋人などからの暴力及び被害者の保護に関して 知っていること	44
9	性的マイノリティについて	45
9-1	性的マイノリティ（またはLGBT等）という言葉を知っているか	45
9-2	今までに自分の体の性、心の性または性的指向に悩んだことがあるか	47
9-3	性的マイノリティ（またはLGBT等）の方が 生活しづらい社会だと思うか	49
9-4	性的マイノリティ（またはLGBT等）の方が 生活しやすくなるために必要な対策	50
9-5	性的マイノリティ（またはLGBT等）の方が感じている問題と思われるもの	51
9-6	性的マイノリティの「パートナーシップ制度」の認知度	52
10	防災・災害対策について	54
10-1	防災・災害対策において、男女共同参画を推進していくために 必要なこと	54
11	男女共同参画社会に向けた取組について	55
11-1	今後、男性が家事、子育て、介護等に積極的に参加するために 必要なこと	55
11-2	女性が仕事、家庭、育児、介護、地域活動等に 積極的に参加するために必要なこと	57
11-3	男女共同参画社会の形成のため、富岡町が力をいれたらよいこと	58
III	自由意見の分析	60
1	自由意見の主な回答	60
1	具体的な意見の分類	60
2	具体的な意見の内容 ※一部意見を抜粋して掲載	61
(1)	男女共同参画社会の形成に関する意識について	61
(2)	仕事について	61
(3)	人権の尊重について	61
(4)	男女の地位に関する意識について	62
(5)	行政への要望について	62
(6)	子育てや家庭生活について	62
(7)	居住地域の慣習や考え方について	63
(8)	健康や老後の暮らしについて	63
(9)	その他	63
IV	使用した調査票	64

I 調査概要

1 調査の目的

「富岡町男女共同参画まちづくり基本計画」を策定するにあたり、町民の男女共同参画社会づくりに関する意見を聴取し、計画策定の基礎資料として活用することを目的として、調査を実施した。

2 調査期間

令和5年11月6日（月）～令和5年11月22日（水）

※集計には、11月30日（木）までの返送票を含めた

3 調査対象

15歳以上の町民 1,000人

4 調査方法

郵送配布・郵送回収・調査票に記載のURLやQRコードからのWEB回答併用

5 回答状況

配布数①	総回答数		有効回答数②		有効回答率 ②/①	
	紙	WEB	紙	WEB	紙	WEB
1,000	180	54	180	53	18.0%	5.3%
	合計		合計		合計	
	234		233		23.3%	

6 調査結果の見方

- n (number of cases) は回答割合算出における基数であり、100.0%が何人の回答に相当するかを表している。
- 回答割合は百分率で表し、小数点第2位を四捨五入して算出している。したがって、単一回答式の質問においては、回答割合を合計しても100.0%にならない場合がある。
また、複数回答式の質問においては、各設問の調査数を基数として算出するため、全ての選択肢の割合を合計すると100.0%を超える場合がある。
- 調査数(n)が少数のものは、回答割合の信頼性が低いため、コメントを省略している場合がある。
- 図表及びコメントで、選択肢の語句等を一部簡略化等している場合がある。
- 調査結果の中でも着目すべき箇所のコメントに網掛け、グラフに太枠、ページ下部に別途コメントを入れている。

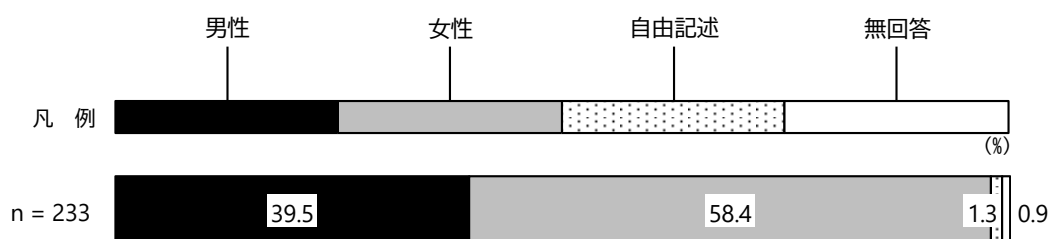
II 調査結果

1 ご自身について

1-1 性別

▶ 「男性」が39.5%、「女性」が58.4%、「自由記述」が1.3%となっている。

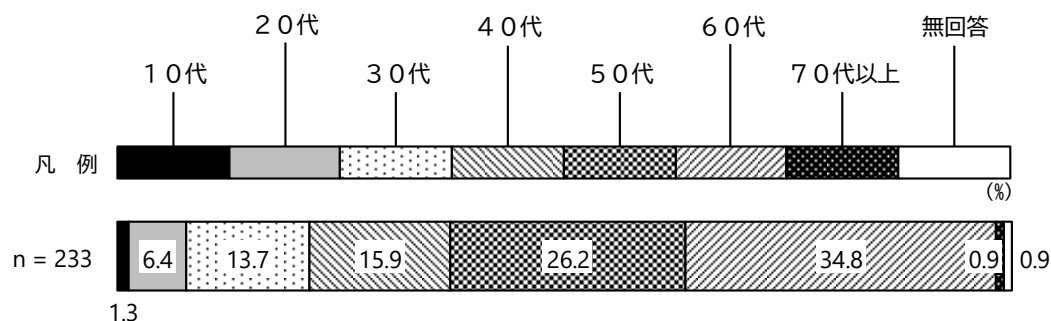
問1 あなたの自認する性別について、次の中から1つ選んでください。(1つに○)



1-2 年齢

▶ 「60代」が34.8%と最も高く、次いで「50代」(26.2%)、「40代」(15.9%)となっている。

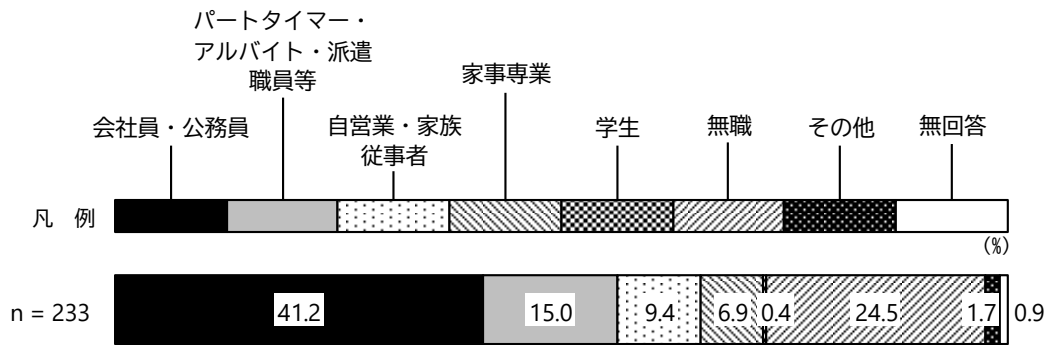
問2 あなたの年齢について、次の中から1つ選んでください。(令和5年11月1日現在)
(1つに○)



1-3 職業

- ▶ 「会社員・公務員」が41.2%と最も高く、次いで「無職」(24.5%)、「パートタイマー・アルバイト・派遣職員等」(15.0%)となっている。

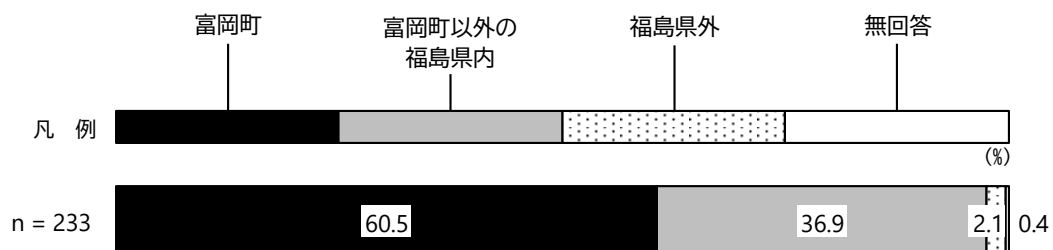
問3 あなたの現在の状況について、次の中から1つ選んでください。(1つに○)



1-4 居住地域

- ▶ 「富岡町」が60.5%、「富岡町以外の福島県内」が36.9%、「福島県外」が2.1%となっている。

問4 あなたのお住まいはどの地域ですか。(1つに○)

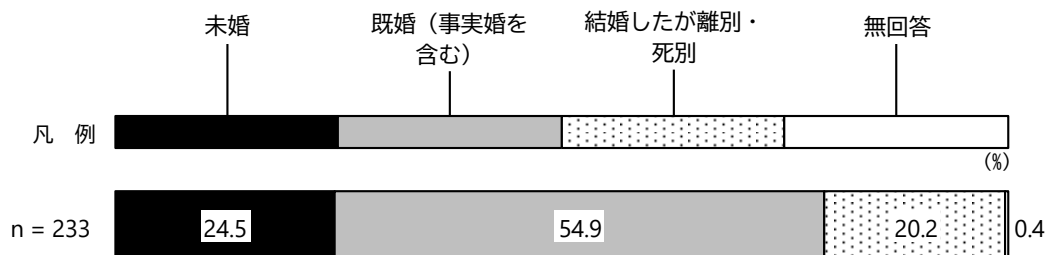


II 調査結果

1-5 結婚の経験

- ▶ 「未婚」が24.5%、「既婚（事実婚を含む）」が54.9%、「結婚したが離別・死別」が20.2%となっている。

問5 あなたのご結婚（事実婚を含む）の経験について、次の中から1つ選んでください。（1つに○）

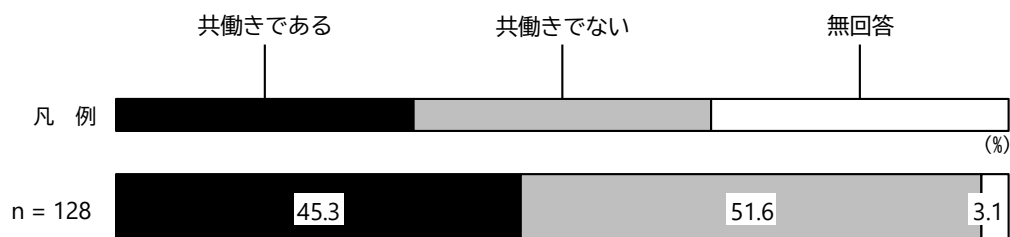


1-6 共働きであるか

- ▶ 「共働きである」が45.3%、「共働きでない」が51.6%となっている。

【問5で、「2 既婚（事実婚を含む）」と答えた方にお聞きします】

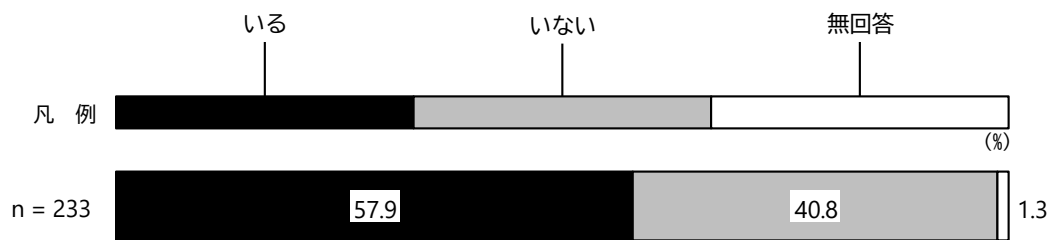
問5-1 あなたは共働き（自分とパートナーとも収入を得る仕事を持っている）ですか。該当するものを1つ選んでください。（1つに○）



1-7 子どもの有無

▶ 子どもが「いる」が57.9%、「いない」が40.8%となっている。

問5-2 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。(1つに○)

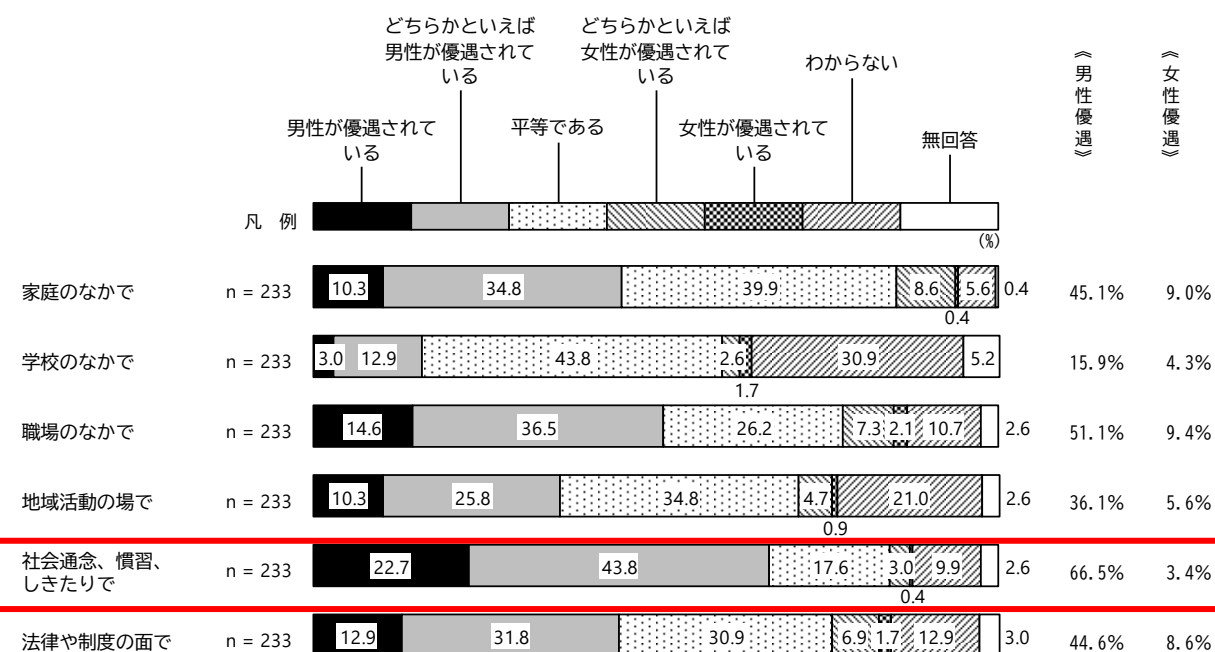


2 男女の地位や生き方について

2-1 各分野の中での男女の地位の平等さ

- ▶ 『学校のなかで』では「平等である」が43.8%と4割を超えている。一方、それ以外の分野では、《男性優遇》が《女性優遇》を大きく上回っており、特に『社会通念、慣習、しきたりで』は66.5%と高くなっている。
- ▶ また、いずれの項目も「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」を足し合わせた《女性優遇》は1割未満となっている。

問6 あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
(それぞれの項目ごとに、1つに○)



※グラフ右の割合は、以下のとおり二つの選択肢の回答割合を合算したもの

《男性優遇》＝「男性が優遇されている」＋「どちらかといえば男性が優遇されている」

《女性優遇》＝「女性が優遇されている」＋「どちらかといえば女性が優遇されている」

なお、図表及びコメントで、上記のように複数項目の合算割合を掲載している場合は、個別の項目の回答数を合算したうえで改めて回答割合を算出し直しており、個別の項目の割合の単純な足し上げの値と一致しない場合がある（これ以降の回答割合の合算値を掲載している箇所も同様）

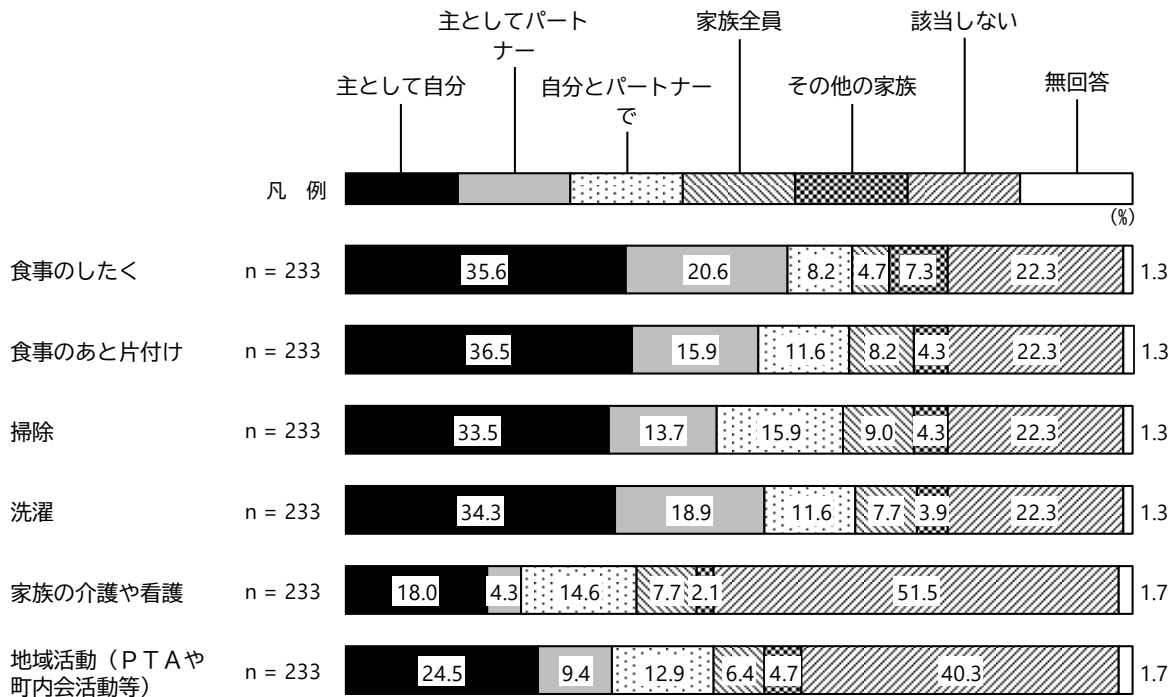
ポイント

『社会通念、慣習、しきたりで』が最も《男性優遇》《女性優遇》での差が大きくなっている。

2-2 家事の分担

▶ いずれの項目も「自分とパートナーで」は1割前後となっており、「主として自分」か「主としてパートナー」のどちらかに偏っている傾向にある。

問7 あなたの家庭では、次にあげるような家事を、主にどなたが担っていますか。
(それぞれの項目ごとに、1つに○)

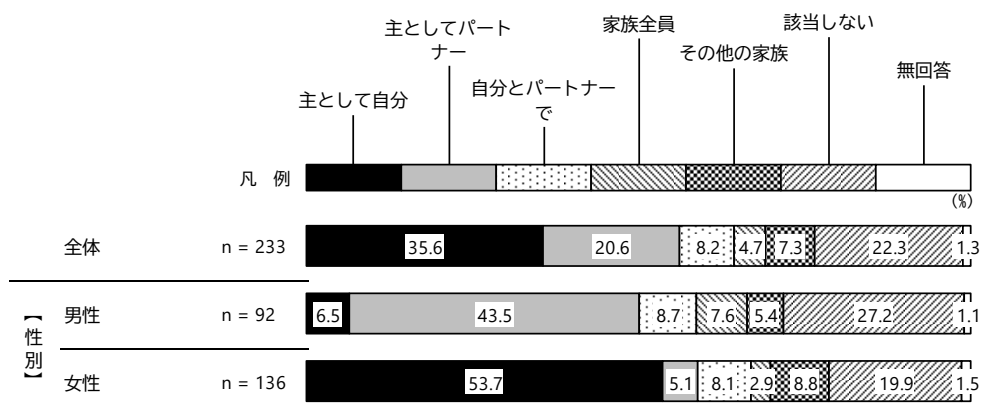


II 調査結果

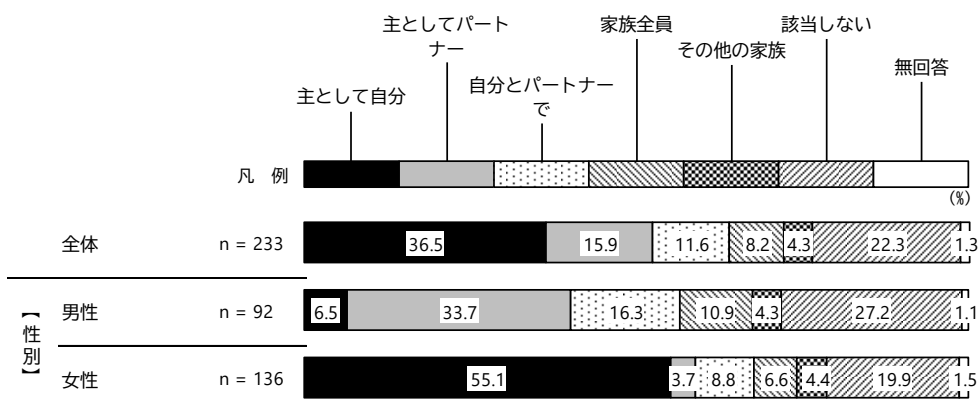
2-2 家事の分担（続き）

- ▶ 性別にみると、女性では『食事のしたく』『食事のあと片付け』『掃除』『洗濯』で「主として自分」が半数を超え、男性の同割合との差がいずれも 40 ポイント以上となっている。

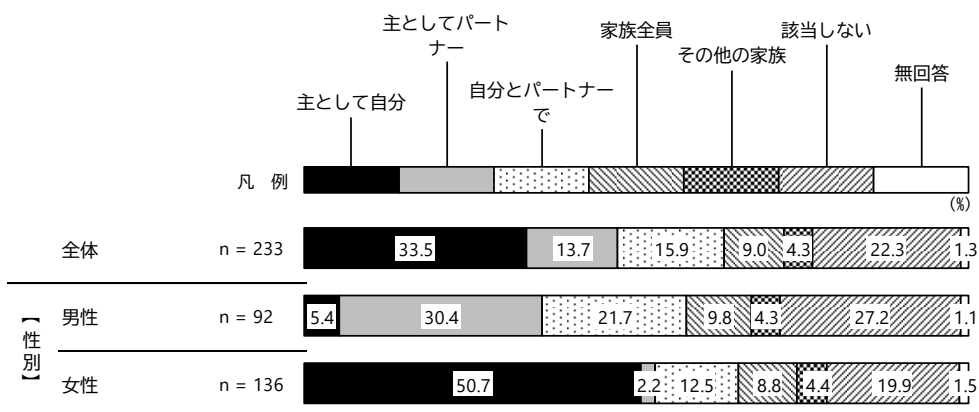
【性別／食事のしたく】



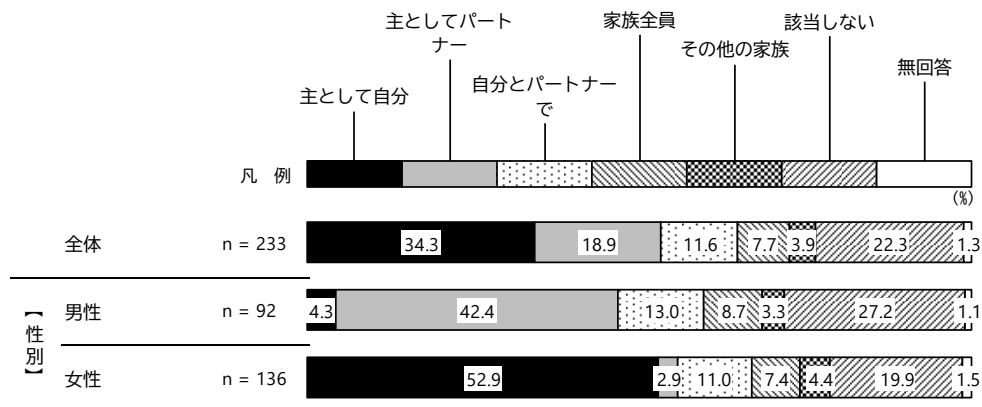
【性別／食事のあと片付け】



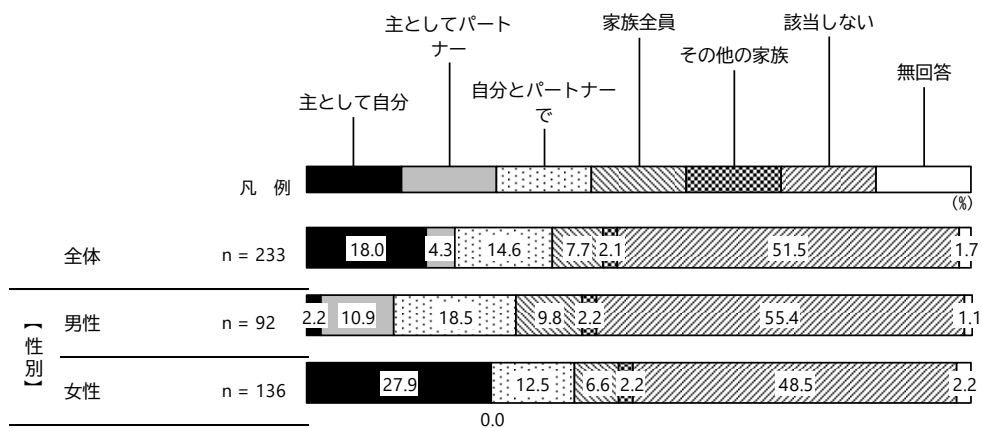
【性別／掃除】



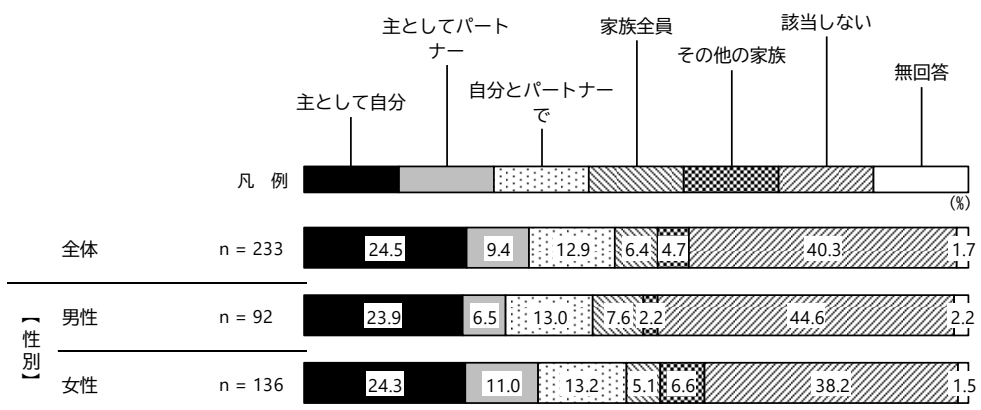
【性別／洗濯】



【性別／家族の介護や看病】



【性別／地域活動（PTA や町内会活動等）】

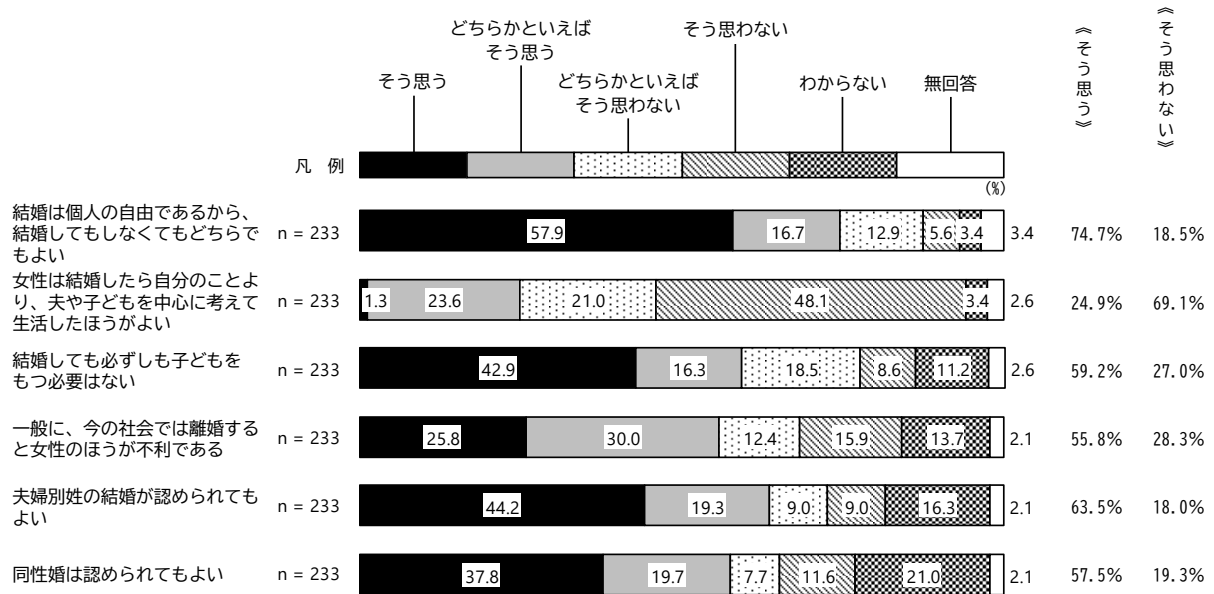


II 調査結果

2-3 結婚、家庭、離婚に関する考え方

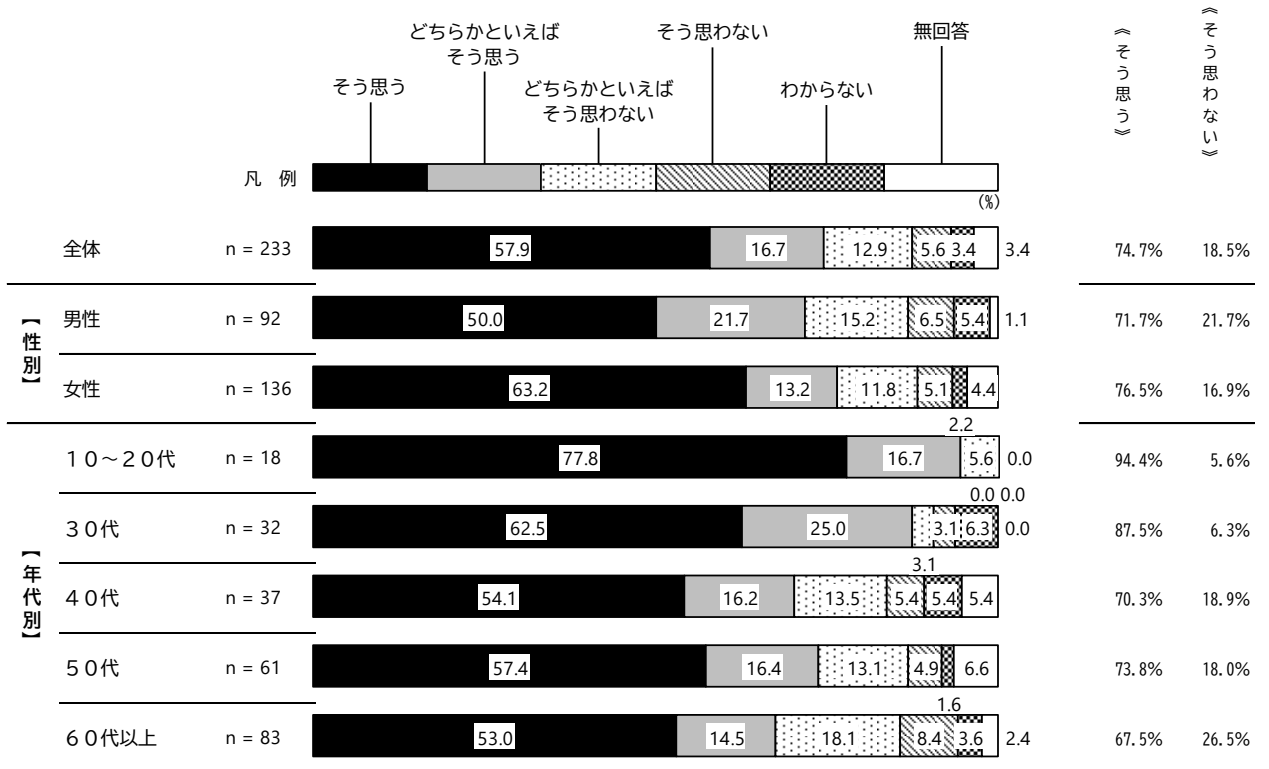
- ▶ 『女性は結婚したら自分のことより、夫や子どもを中心に考えて生活したほうがよい』では、《そう思わない》が《そう思う》に比べて高くなっている。一方、それ以外の項目では、《そう思う》が高くなっている。特に、『結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい』では、《そう思う》が7割を超えている。

問8 次にあげた結婚、家庭、離婚に関する考え方について、それぞれあなたのお考えに最も近いものをお選びください。(それぞれの項目ごとに、1つに○)



【性別・年代別／結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい】

▶ 年代別にみると、10～20代及び30代の若い年代では《そう思う》が8割を超え、全体と比べ10ポイント以上高くなっている。



※年齢別クロスは、設問の7区分ではなく、5区分に集約したものでクロスしている
(これ以降の年代別クロスを掲載している箇所も同様)

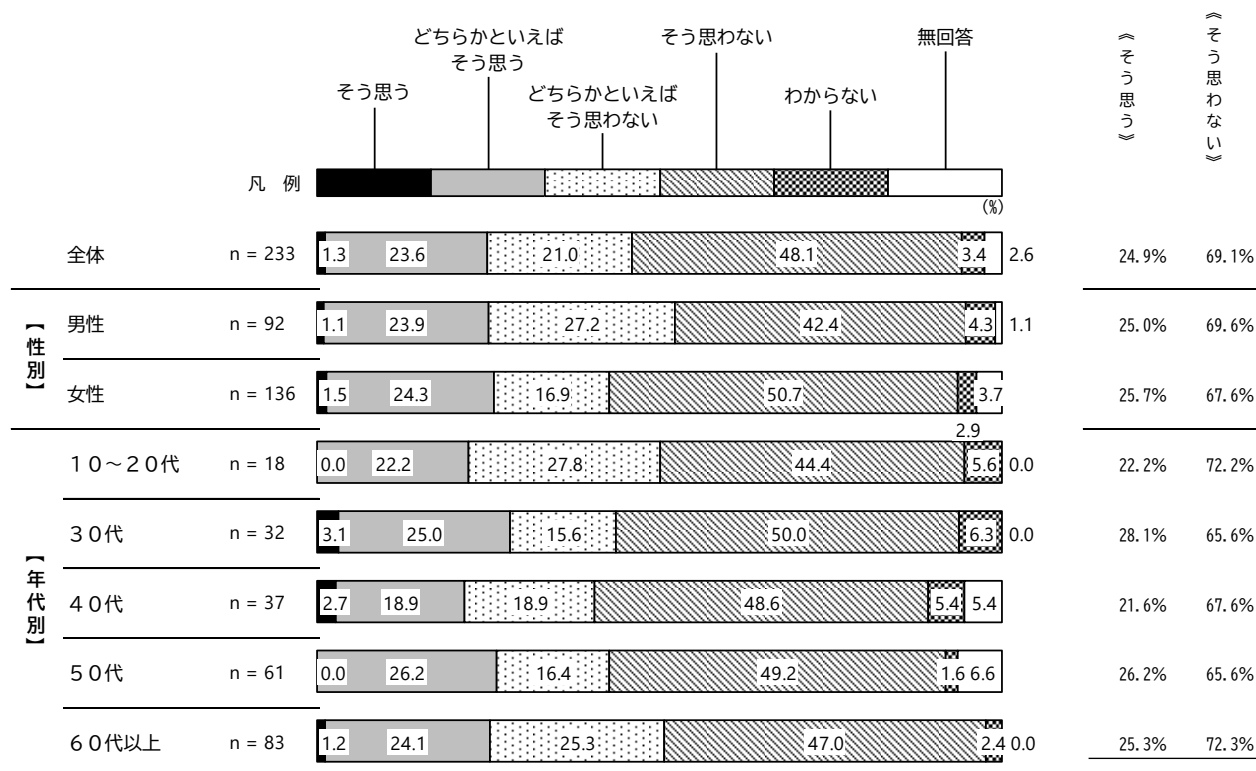
II 調査結果

2-3 結婚、家庭、離婚に関する考え方（続き）

【性別・年代別／

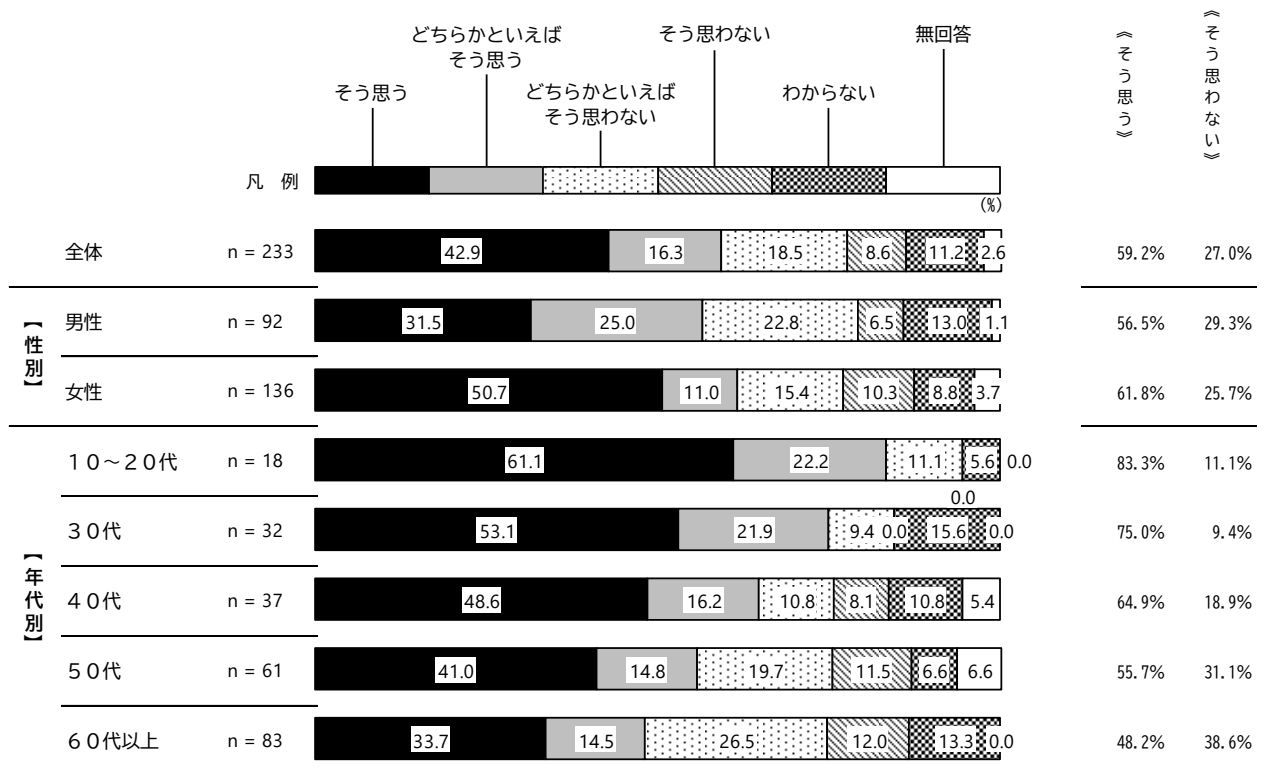
女性は結婚したら自分のことより、夫や子どもを中心に考えて生活したほうがよい】

- ▶ 性別にみると、男性では「どちらかといえばそう思わない」が27.2%と、女性（16.9%）に比べ10ポイント以上高くなっている。



【性別・年代別／結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない】

▶ 年代別にみると、10～20代では《そう思う》が83.3%と最も高く、8割を超えているが、同割合は年代が上がるにつれて減少する傾向にある。

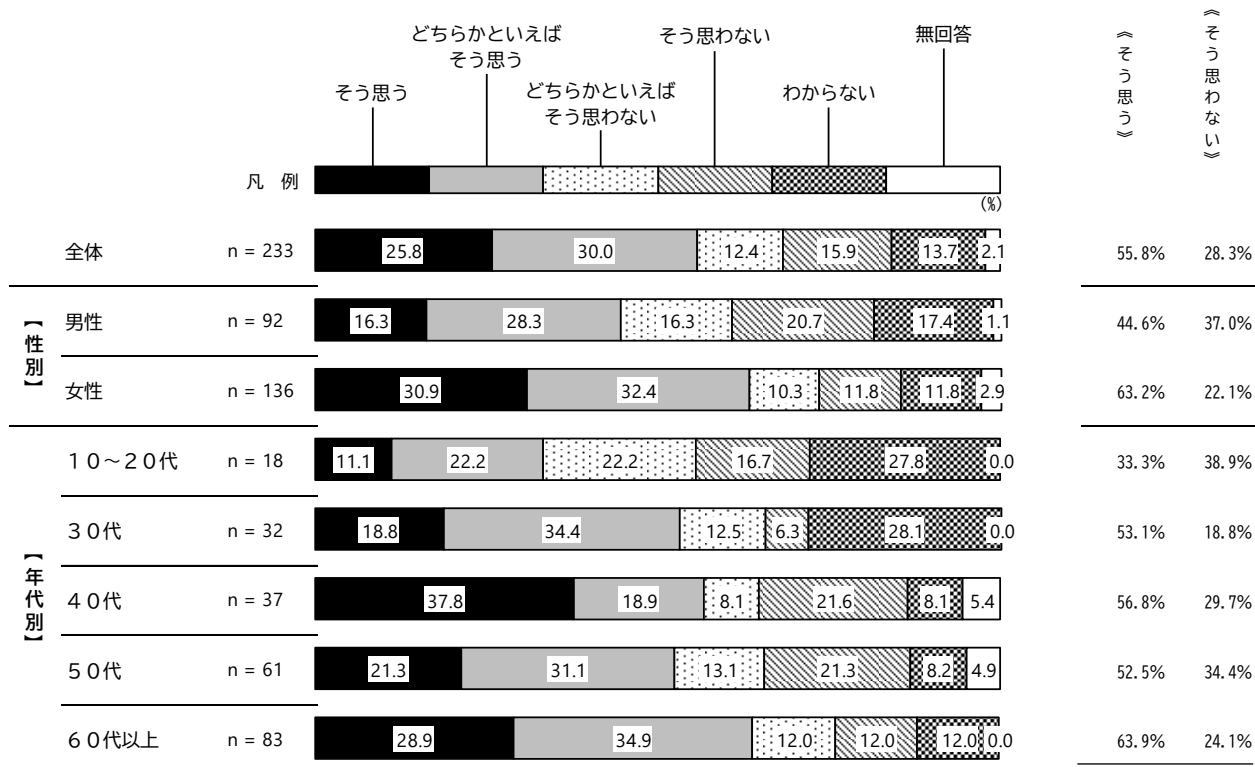


II 調査結果

2-3 結婚、家庭、離婚に関する考え方（続き）

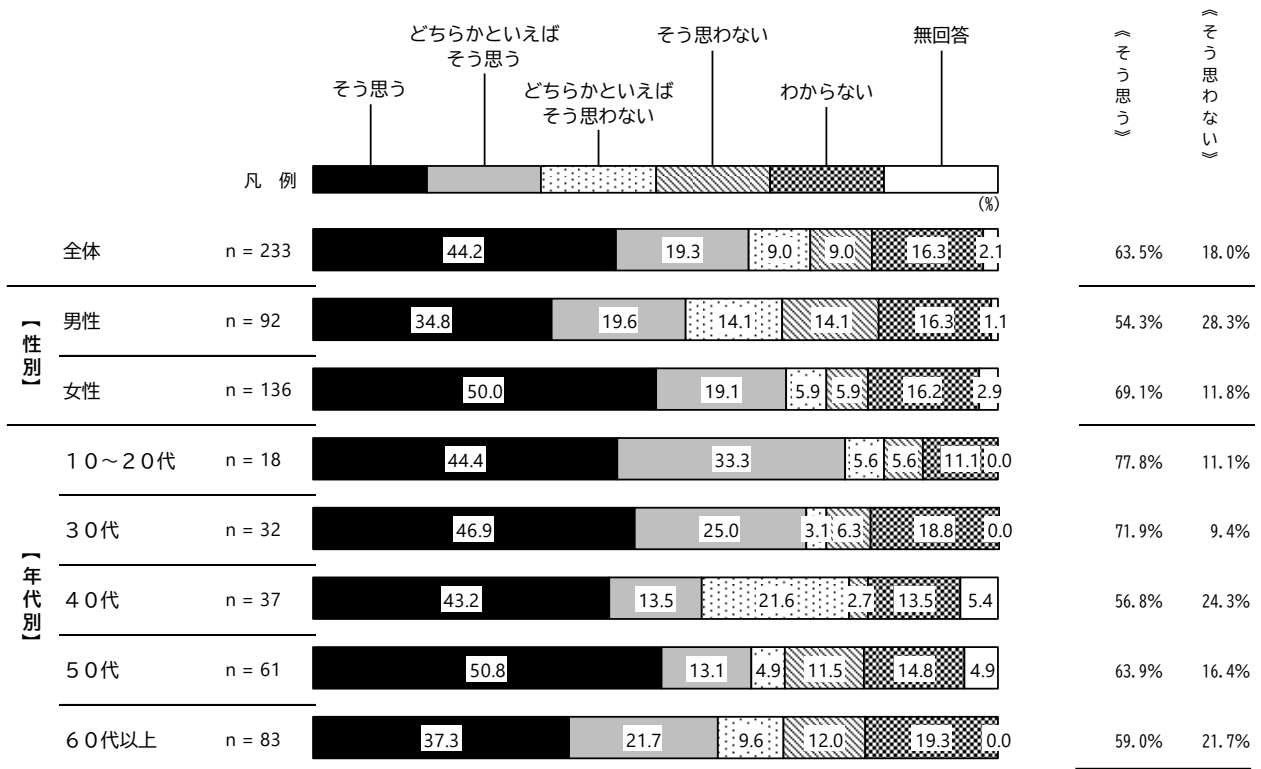
【性別・年代別／一般に、今の社会では離婚すると女性のほうが不利である】

- ▶ 性別にみると、女性では《そう思う》が63.2%と、男性（44.6%）に比べ15ポイント以上高くなっている。
- ▶ 年代別にみると、10～20代では《そう思う》が33.3%と約3割にとどまり、その他の世代では同割合が5割を超え、半数以上となっている。



【性別・年代別／夫婦別姓の結婚が認められてもよい】

- ▶ 性別にみると、女性では《そう思う》が69.1%と、男性（54.3%）に比べ10ポイント以上高くなっている。
- ▶ 年代別にみると、10～20代及び30代の若い世代では《そう思う》が7割を超え、その他の世代でも同割合が5割を超えている。

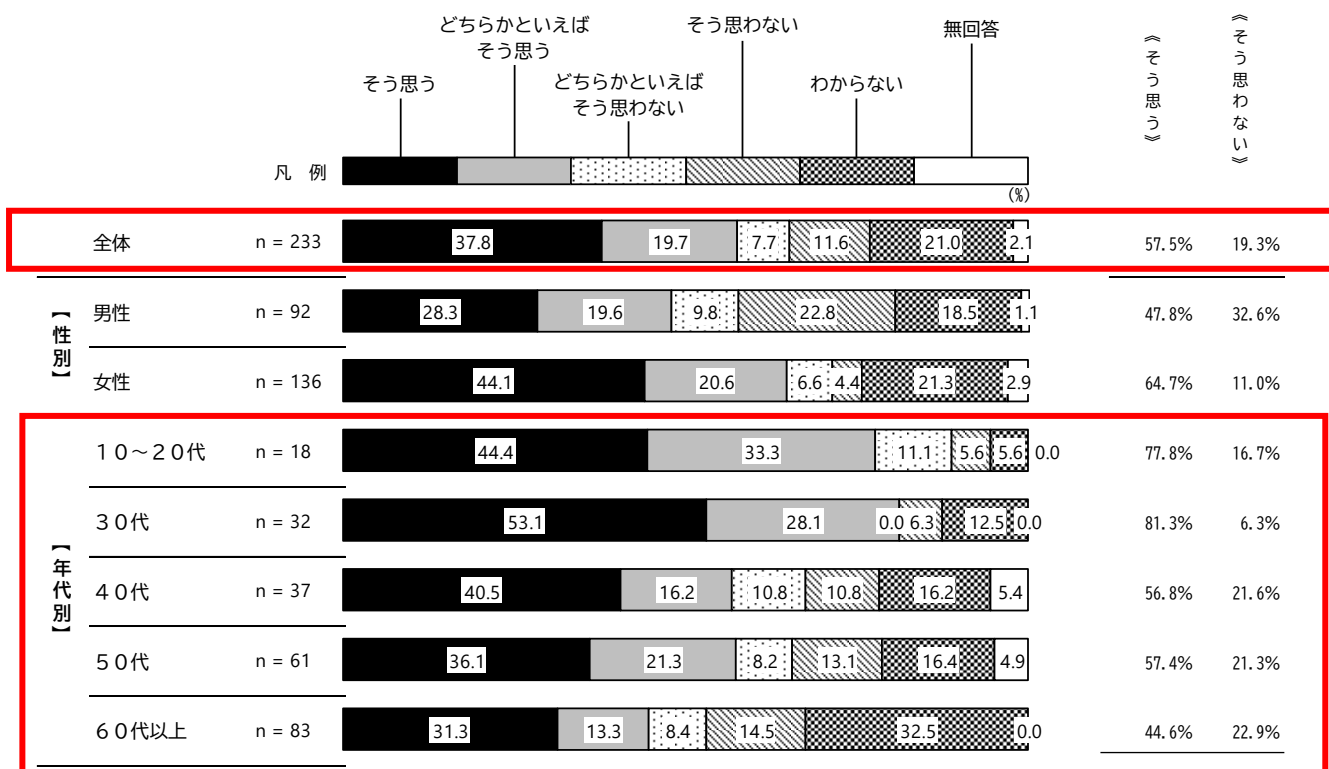


II 調査結果

2-3 結婚、家庭、離婚に関する考え方（続き）

【性別・年代別／同性婚は認められてもよい】

- ▶ 性別にみると、男性では《そう思わない》が32.6%と、女性（11.0%）に比べ20ポイント以上高くなっている。
- ▶ 年代別にみると、《そう思う》が10～20代及び30代では7割を超えているが、40代から60代以上では同割合が6割未満となっている。
- ▶ また、60代以上では「わからない」が32.5%と、全体と比べ10ポイント以上高くなっている。



ポイント

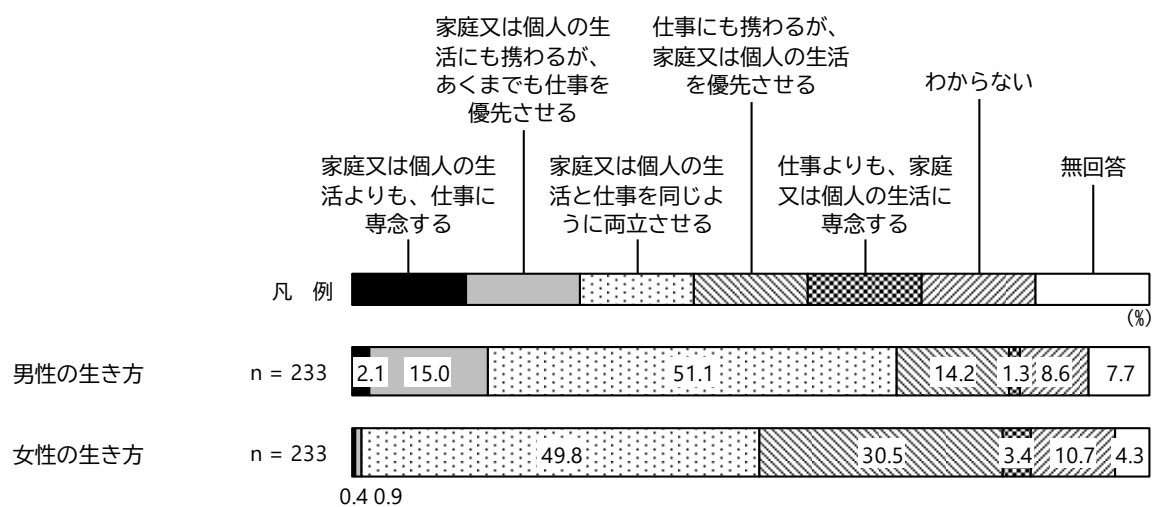
『同性婚は認められてもよい』では全体で《そう思う》が57.5%となっており、約6割が同性婚は認められてもよいと思っている。この結果を年代別にみると、《そう思う》は、10～20代及び30代では7割を超えているが、40代から60代以上では6割未満となっている。40代未満の若年層では同性婚について認められてもよいと思っている割合が高い傾向にある。

2-4 男女の望ましいと思う生き方

- ▶ 『男性の生き方』『女性の生き方』ともに「家庭又は個人の生活と仕事を同じように両立させる」が最も高くなっている。
- ▶ 『男性の生き方』では、「家庭又は個人の生活にも携わるが、あくまでも仕事を優先させる」(15.0%)が第2位であるが、『女性の生き方』では「仕事にも携わるが、家庭又は個人の生活を優先させる」(30.5%)が第2位となっている。

問9 女性及び男性の望ましいと思う生き方はどのような生き方だと思いますか。

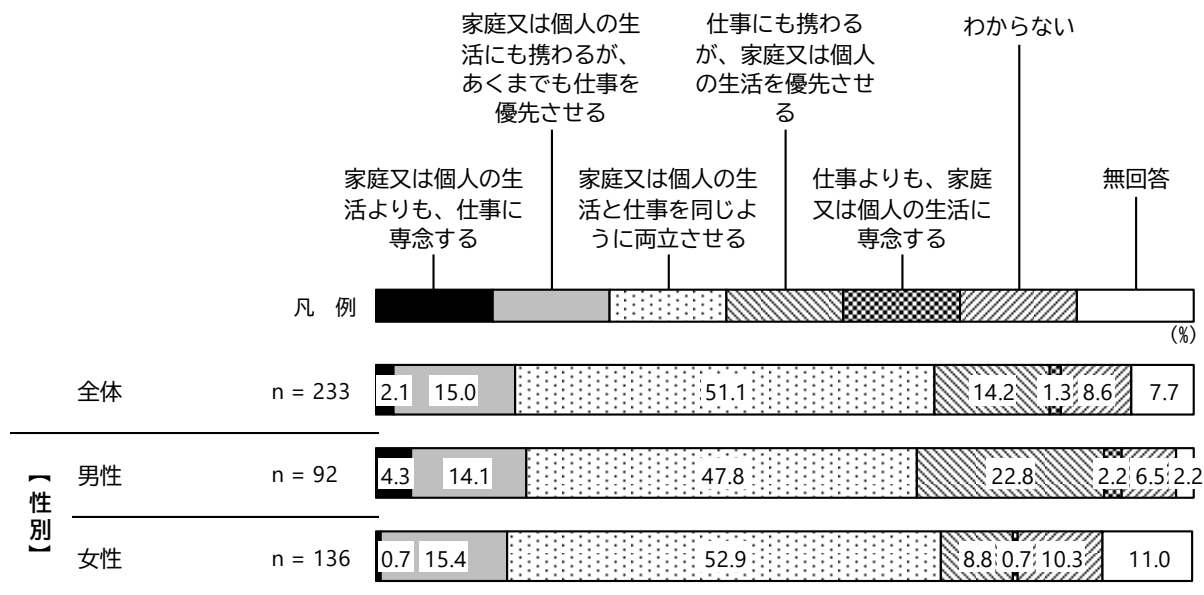
(それぞれの項目ごとに、1つに○)



2-4 男女の望ましいと思う生き方（続き）

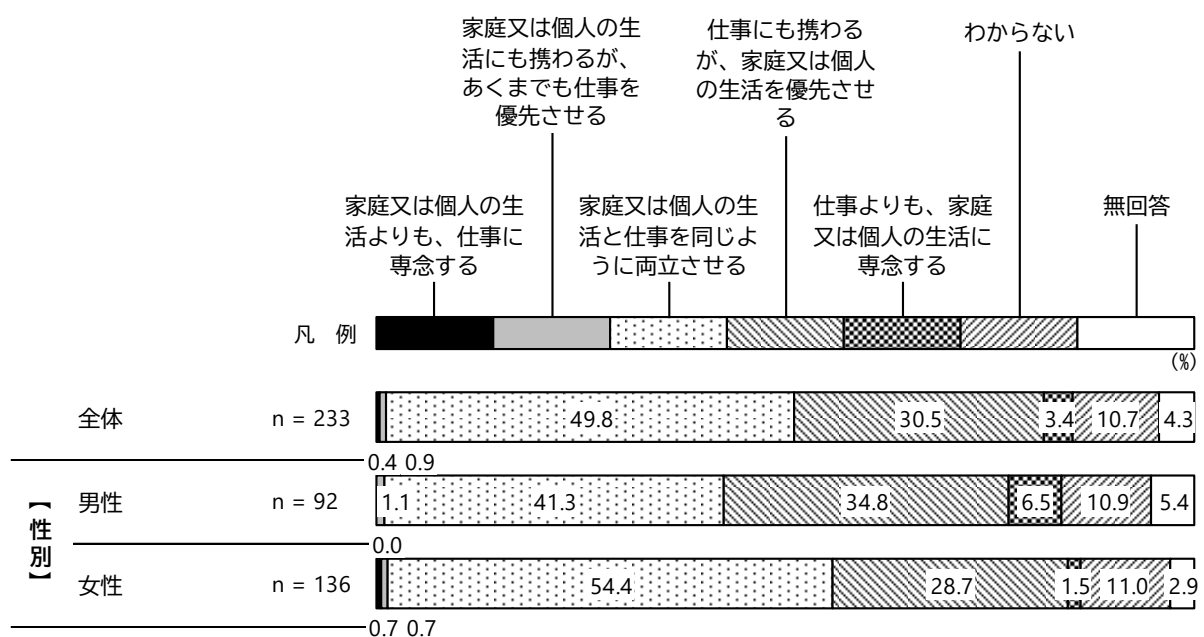
【性別／男性の生き方】

- ▶ 性別にみると、男性では「仕事にも携わるが、家庭又は個人の生活を優先させる」が22.8%と、女性（8.8%）に比べ10ポイント以上高くなっている。



【性別／女性の生き方】

- ▶ 性別にみると、女性では「家庭又は個人の生活と仕事を同じように両立させる」が54.4%と、男性（41.3%）に比べ10ポイント以上高くなっている。



3 子育て・教育について

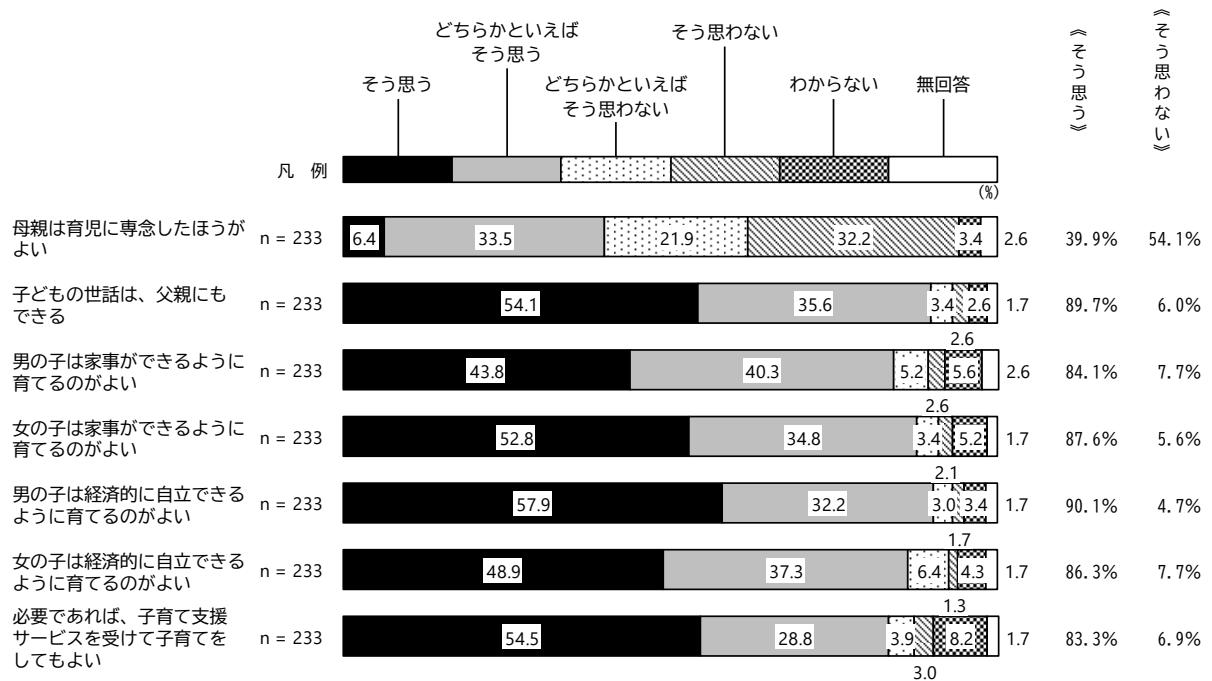
3-1 子育てについての意見

▶ 多くの項目で《そう思う》が8～9割を占めているが、『母親は育児に専念したほうがよい』では《そう思わない》が54.1%と、半数を超えている。

問10 子育てについて、あなたのご意見に近いものはどれですか。

(それぞれの項目ごとに、1つに○)

※お子さんがいらっしゃる方は、お子さんがいるという想定でお答えください。

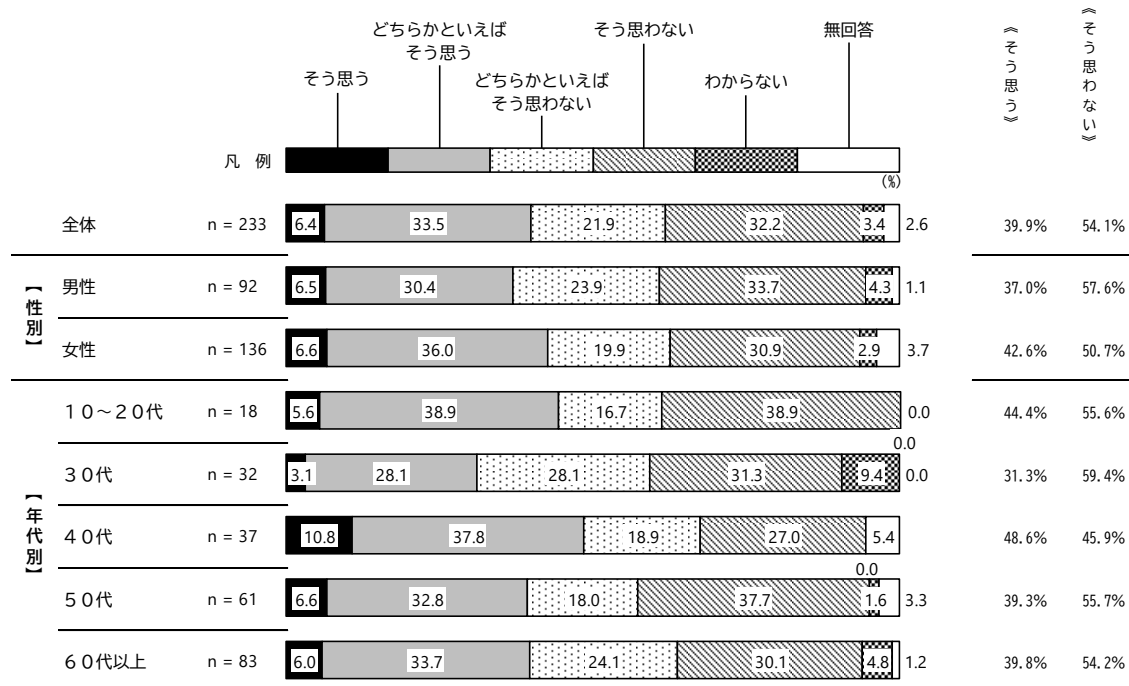


II 調査結果

3-1 子育てについての意見（続き）

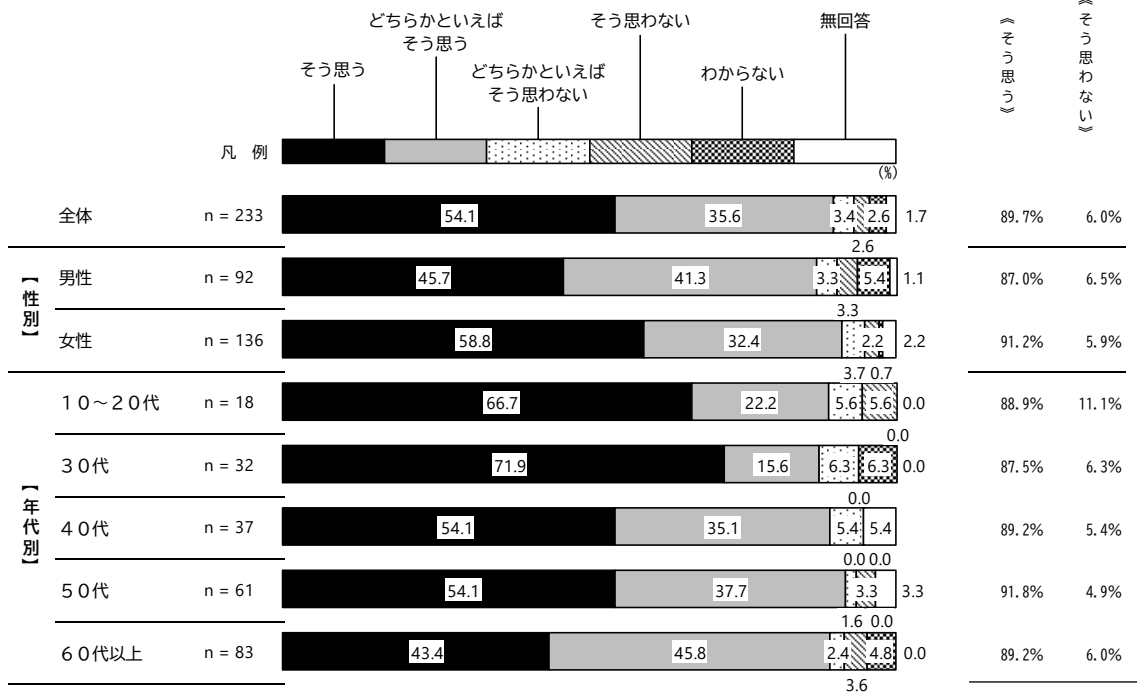
【性別・年代別／母親は育児に専念したほうがよい】

- ▶ 性別にみると、女性では《そう思う》が42.6%と、男性（37.0%）に比べ5.6ポイント高くなっている。
- ▶ 年代別にみると、40代では《そう思う》が48.6%と、全体と比べ8.7ポイント高くなっている。



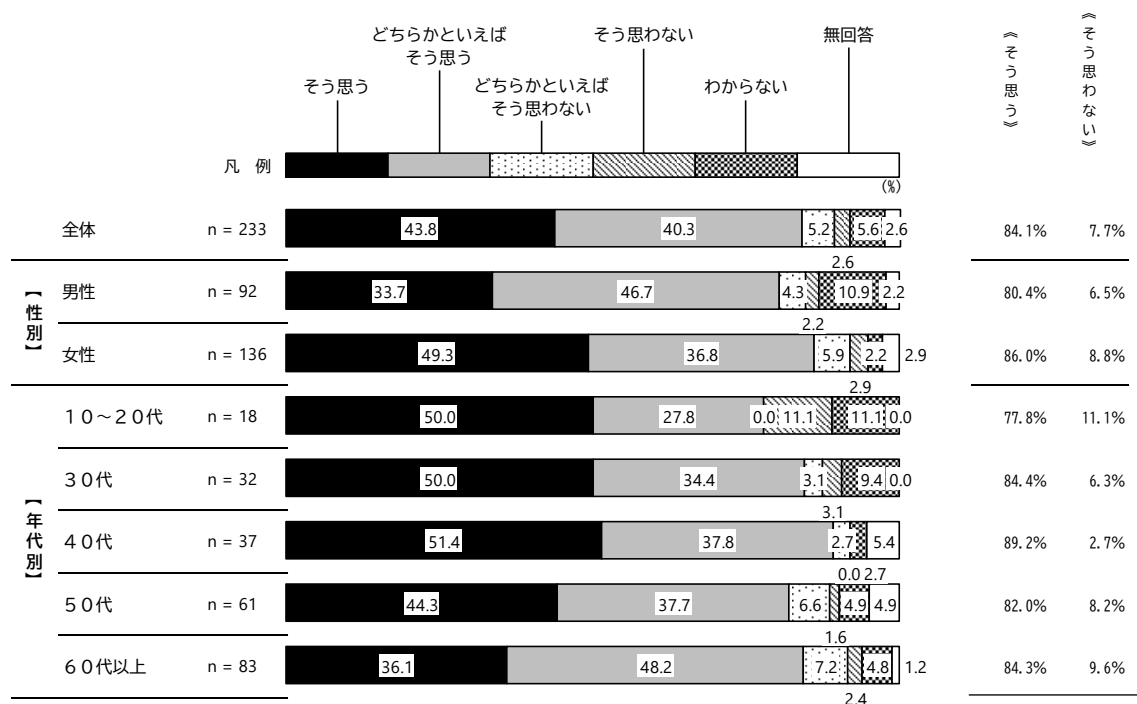
【性別・年代別／子どもの世話は、父親にもできる】

▶ 性別にみると、女性では《そう思う》が91.2%と、男性（87.0%）に比べ4.2ポイント高くなっている。



【性別・年代別／男の子は家事ができるように育てるのがよい】

▶ 性別にみると、女性では《そう思う》が86.0%と、男性（80.4%）に比べ5.6ポイント高くなっている。

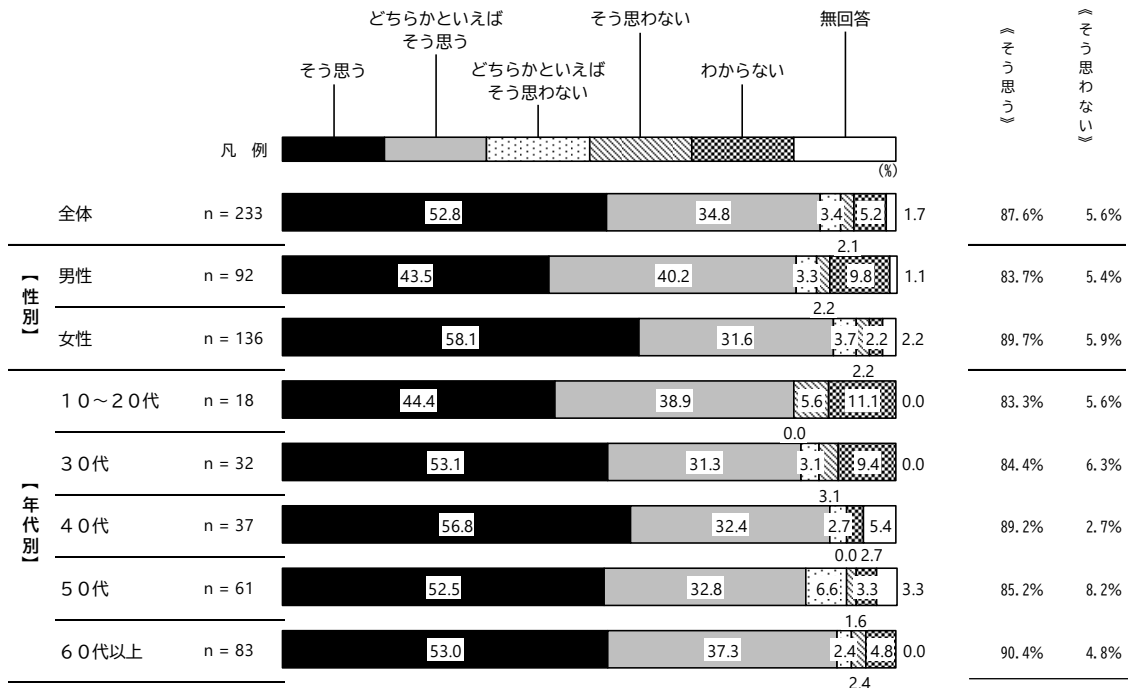


II 調査結果

3-1 子育てについての意見（続き）

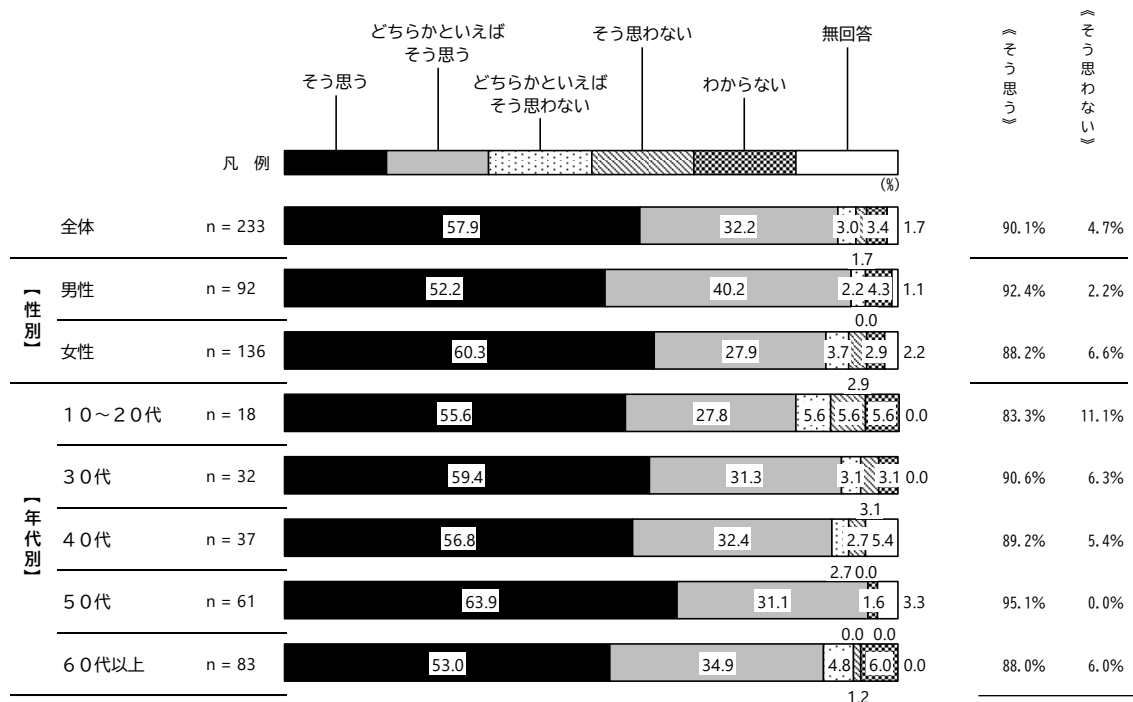
【性別・年代別／女の子は家事ができるように育てるのがよい】

- ▶ 性別にみると、女性では《そう思う》が89.7%と、男性（83.7%）に比べ6.0ポイント高くなっている。



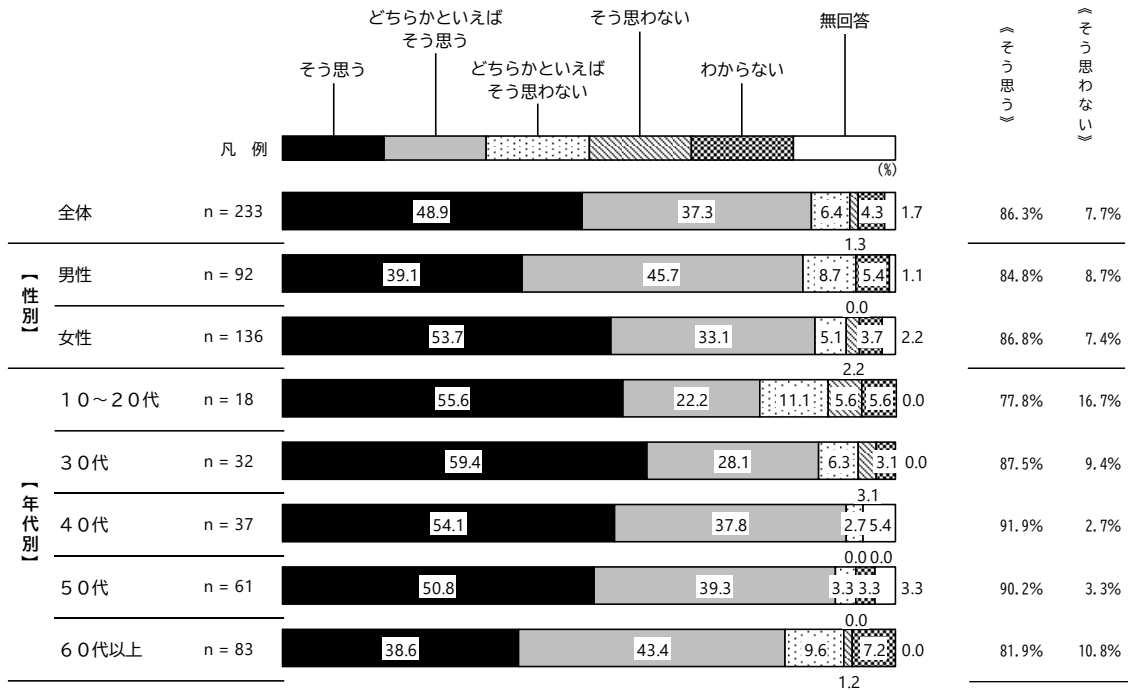
【性別・年代別／男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい】

- ▶ 性別にみると、男性では《そう思う》が92.4%と、女性（88.2%）に比べ4.2ポイント高くなっている。



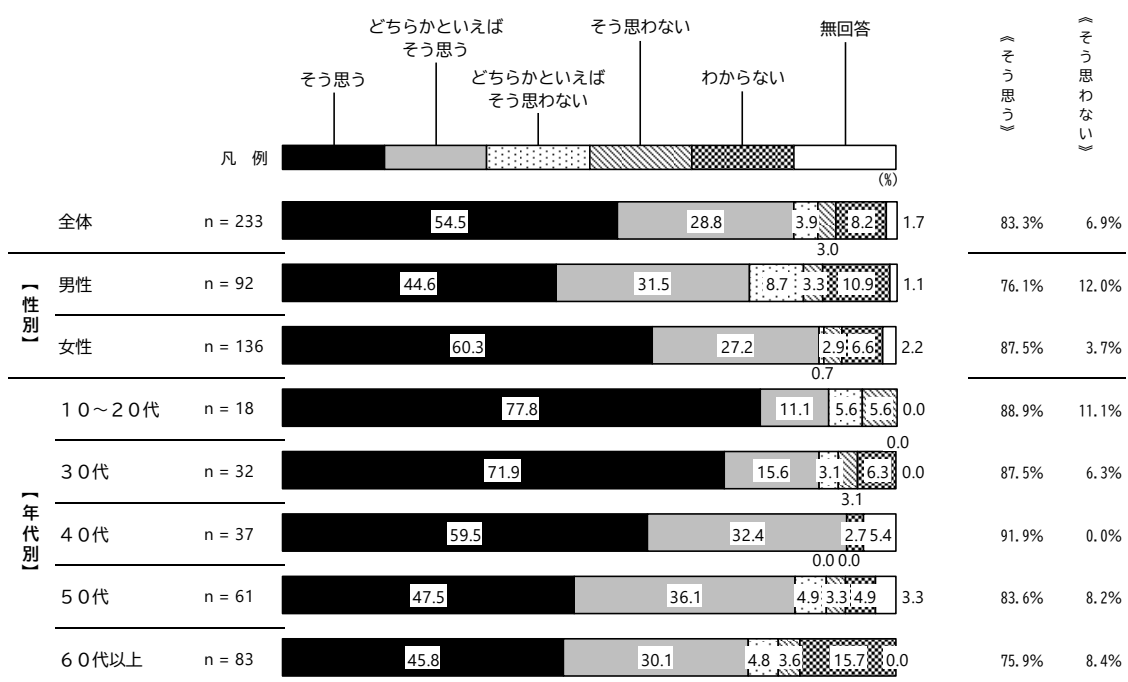
【性別・年代別／女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい】

▶ 年代別にみると、いずれの年代も《そう思う》が7割を超えている。一方、10～20代及び60代以上では《そう思わない》が16.7%、10.8%と1割を超えている。



【性別・年代別／必要であれば、子育て支援サービスを受けて子育てしてもよい】

▶ 性別にみると、女性では《そう思う》が87.5%と、男性（76.1%）に比べ10ポイント以上高くなっている。



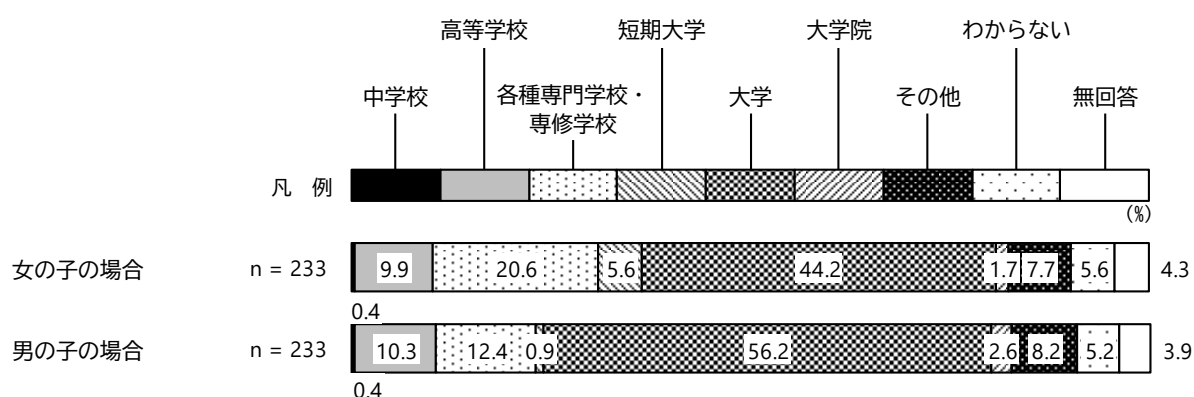
3-2 子どもにどの程度の教育を受けさせたいか

- ▶ 『男の子の場合』では「大学」が56.2%と5割以上を占めるが、『女の子の場合』では「大学」が44.2%と5割を下回り、「各種専門学校や専修学校」や「短期大学」が『男の子の場合』に比べやや高くなっている。

問11 あなたのお子さんには、どの程度の教育を受けさせたいと思いますか。

(それぞれの項目ごとに、1つに○)

※お子さんがいらっしゃらない方、お子さんが既に学校を終えられた方も、ご自分に女の子と男の子がいると仮定してお答えください。



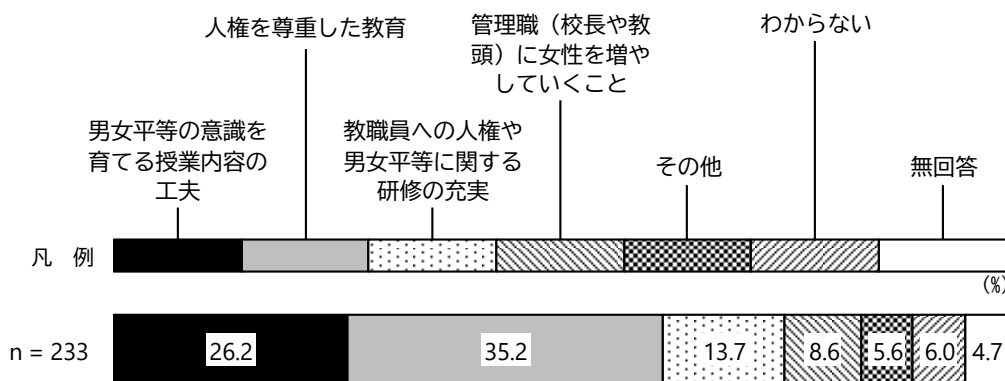
【「その他」の具体的な意見（一部抜粋）】

- ・本人の意志を尊重すべきだと思う。(男性/20代)
- ・出来る限り本人の希望を聞き、親の考えを押しつけない。(男性/30代)
- ・本人が希望したら受けられる環境を整えたいと思う。なので、どこまでという希望はない。
(女性/30代)

3-3 男女平等の社会を実現するため、学校教育の場で力を入れたらよいこと

- ▶ 「人権を尊重した教育」が35.2%と最も高く、次いで「男女平等の意識を育てる授業内容の工夫」(26.2%)、「教職員への人権や男女平等に関する研修の充実」(13.7%)となっている。

問12 男女平等の社会を実現するために、学校教育の場では、特にどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。(1つに○)



【「その他」の具体的な意見 (一部抜粋)】

- ・ 個々人の意見を理解するために、グループディスカッション等を取り入れ、自分の考えを周囲に伝えたり、他人の考えを知る機会を増やす必要があると思う。男性でも女性と同じ考え方を持つ人もいれば、女性でも男性と同じ考えを持つ人もいるので色々な考えを知る機会を増やしていけばいいと思う。(男性/20代)
- ・ 男女の区分を無くす(例: 男女別に集合、男女のバランスを考慮した班編成、男女の境界を必要以上に作らないようにする)(男性/20代)
- ・ 道徳や性教育を通して、相手の気持ち、考え、生き方を尊重し、相手が嫌がるような言動を慎み相手との距離感を学ぶ教育。(男性/30代)

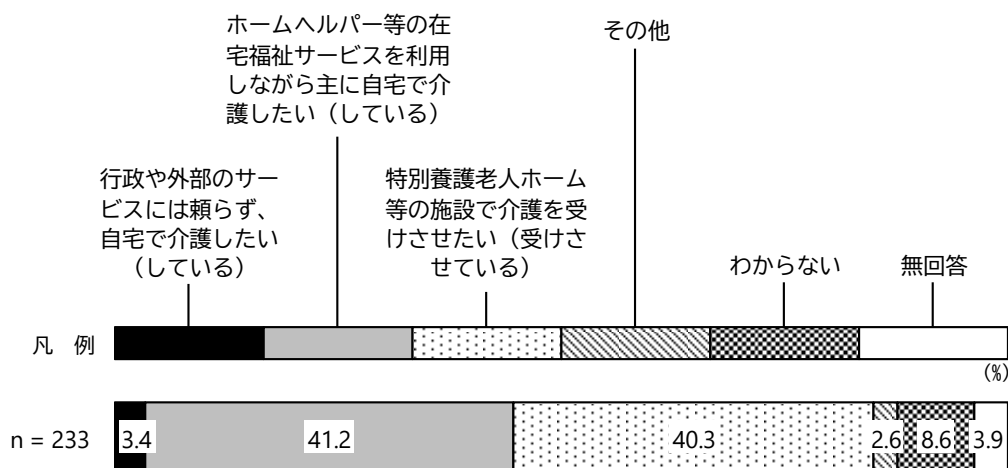
4 介護について

4-1 家族の介護が必要な場合の対応

- ▶ 「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護したい（している）」が41.2%と最も高く、次いで「特別養護老人ホーム等の施設で介護を受けさせたい（受けさせている）」(40.3%)、「行政や外部のサービスには頼らず、自宅で介護したい（している）」(3.4%)となっている。

問13 家族の介護が必要な場合、あなたはどのようにしますか（していますか）。

(1つに○)



【「その他」の具体的な意見（一部抜粋）】

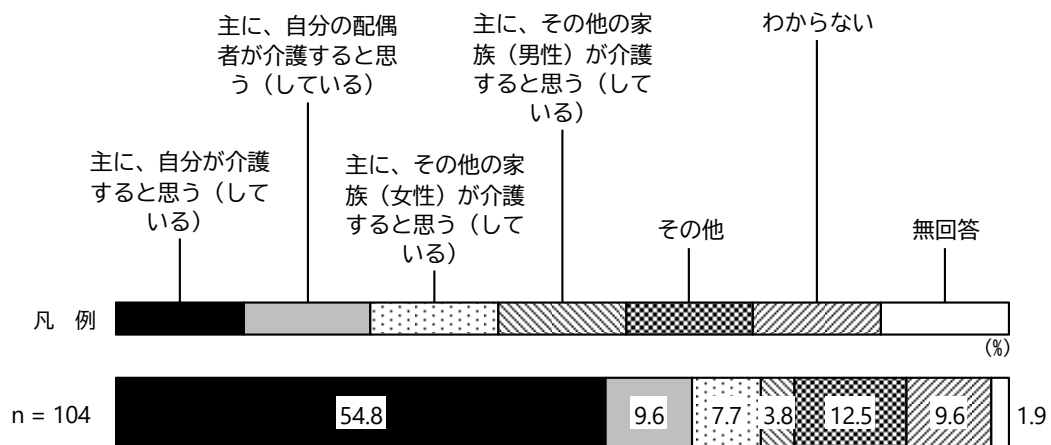
- ・ 自宅で介護できるうちは自宅でサービスを利用しながら、それ以上になったら施設での介護を受ける。(男性/60代)
- ・ 介護状態で決めたい。使える支援は全て使いたい。(女性/60代)
- ・ 本人が何を望むのかと自分の都合による。(女性/30代)

4-2 自宅で介護する（している）場合の主な介護者

- ▶ 「主に、自分が介護すると思う（している）」が54.8%と最も高く、次いで「主に、自分の配偶者が介護すると思う（している）」(9.6%)、「主に、その他の家族（女性）が介護すると思う（している）」(7.7%)となっている。

【問13で、「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

問13-1 自宅で介護する（している）場合の主な介護者は誰ですか。（1つに○）



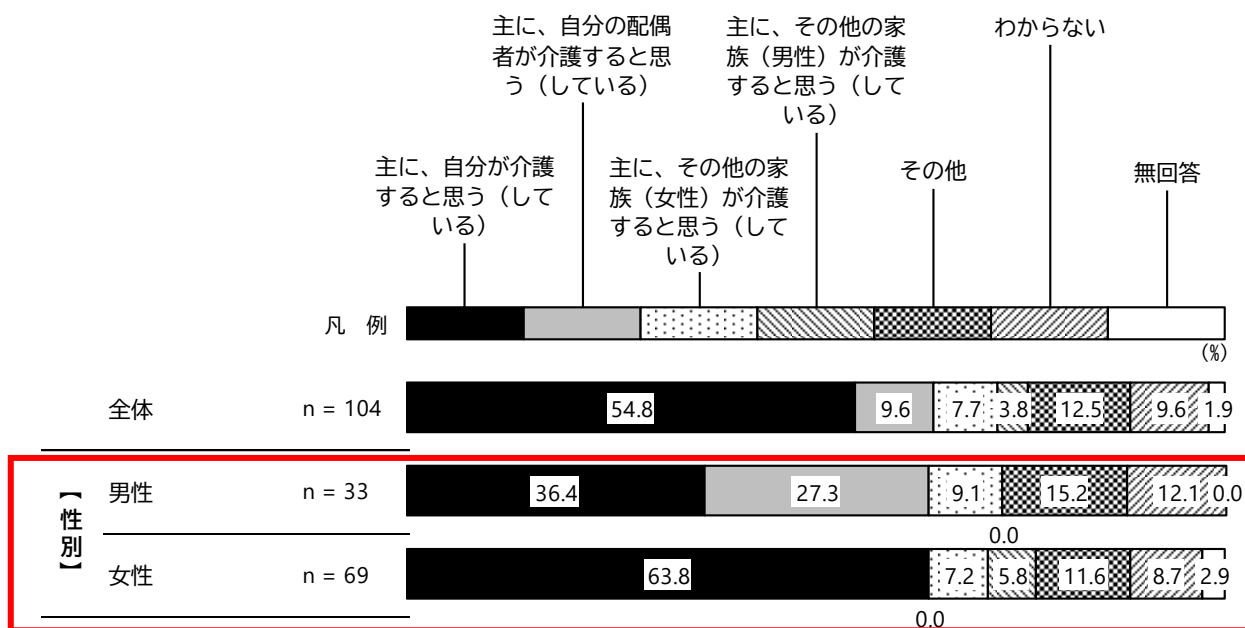
【「その他」の具体的な意見（一部抜粋）】

- ・実子が各々の親を介護している。（女性／40代）
- ・家族皆で分担。（女性／50代）
- ・手の空いているもの、対象者が男性か女性かによって、性的負担を減らす為に入浴やおむつ交換等に関しては対応者を変えるので主といった考え方は無い。（男性／40代）

II 調査結果

【性別／自宅で介護する（している）場合の主な介護者】

- ▶ 性別にみると、女性では「主に、自分が介護すると思う（している）」が63.8%と、男性（36.4%）に比べ25ポイント以上高くなっている。また、「主に自分の配偶者が介護すると思う（している）」は女性の回答割合は0.0%だが、男性は27.3%と約3割となっており、女性が介護すると思う（している）割合の高さがうかがえる。



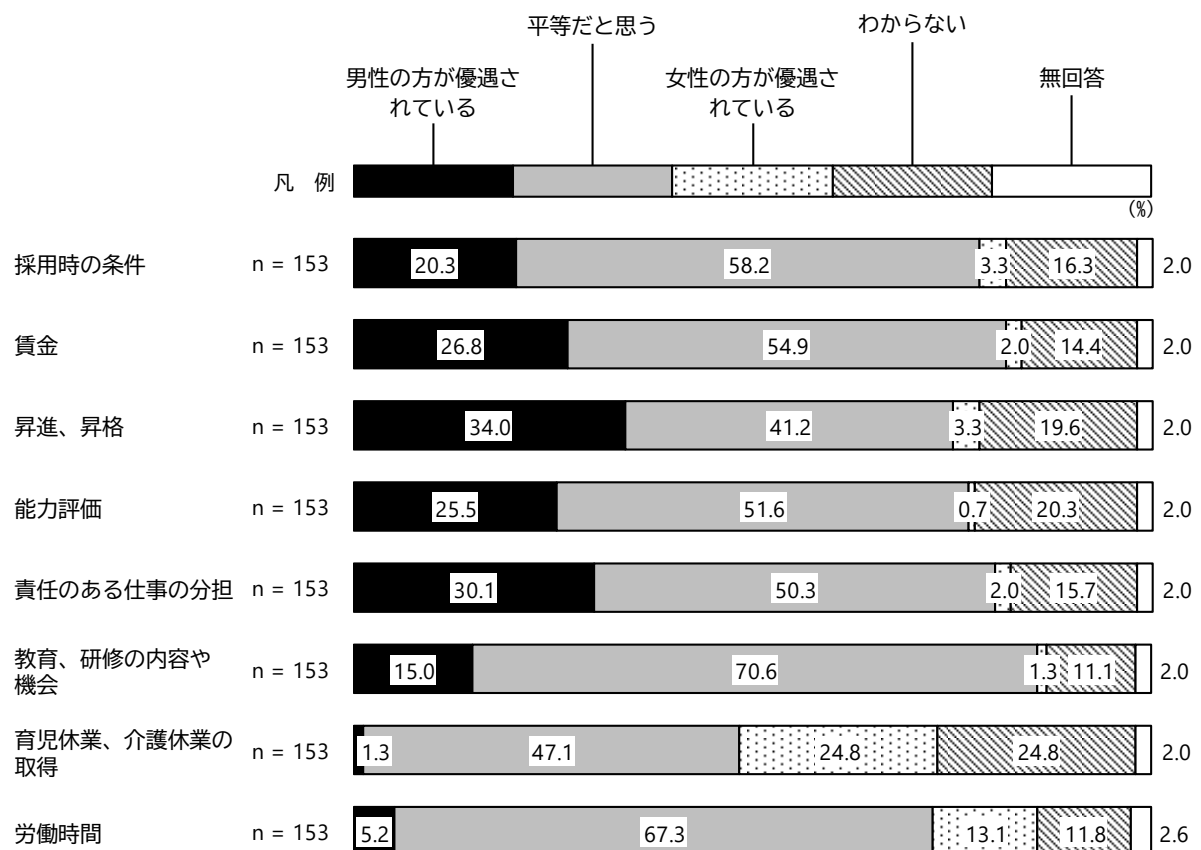
5 仕事と私生活について

5-1 仕事の内容や待遇面等での女性と男性は平等だと思うか

- ▶ 『教育、研修内容や機会』では「平等だと思う」が70.6%と、いずれの項目よりも高くなっている。
- ▶ 一方、『昇進、昇格』では「男性の方が優遇されている」が34.0%、『育児休業、介護休業の取得』では「女性の方が優遇されている」が24.8%と、いずれの項目よりも高くなっている。
- ▶ 「女性の方が優遇されている」よりも「男性の方が優遇されている」の方が比率的に高いものが多いが、『育児休業、介護休業の取得』と『労働時間』では「女性の方が優遇されている」の方が高い比率となっている。

【問3で、現在働いている（「1」～「3」のいずれか）と答えた方にお聞きします】

問14 あなたの働いているところ（自営業を含む）では、仕事の内容や待遇面等で、女性と男性は平等だと思いますか。（それぞれの項目ごとに、1つに○）

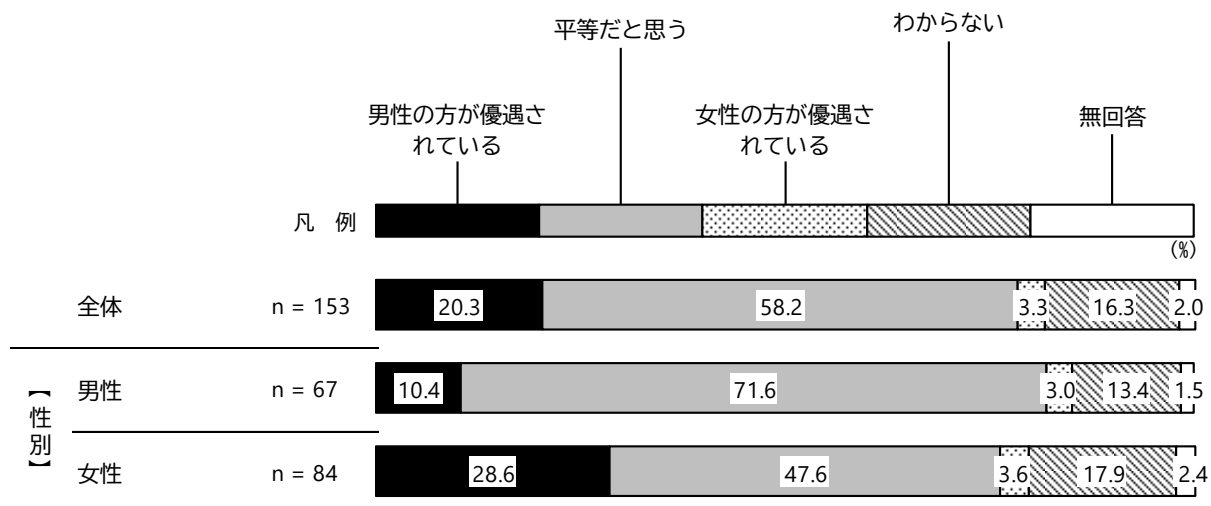


II 調査結果

5-1 仕事の内容や待遇面等での女性と男性は平等だと思うか（続き）

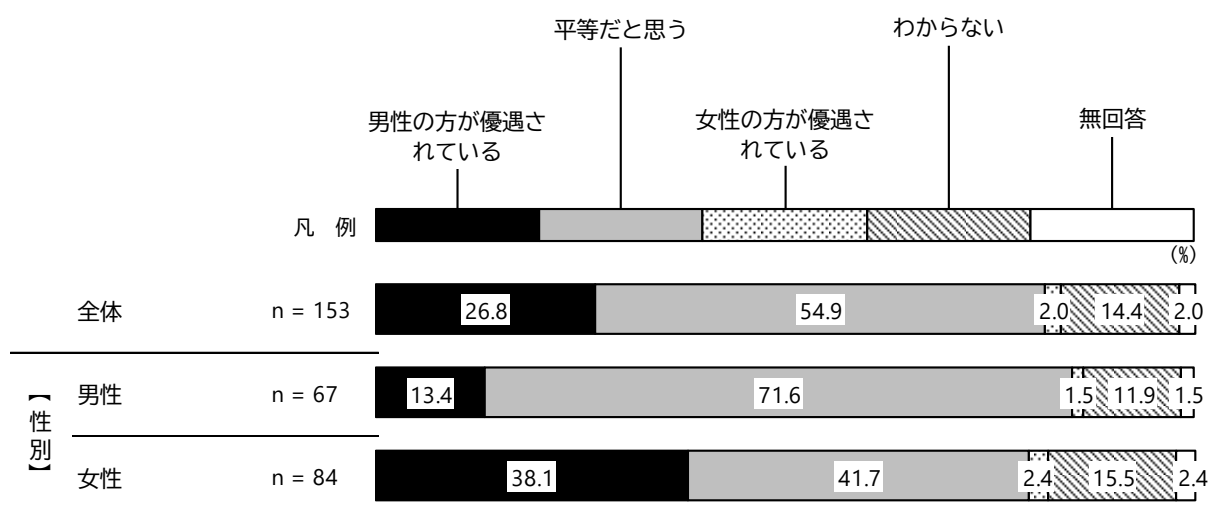
【性別／採用時の条件】

- ▶ 性別にみると、女性では「男性の方が優遇されている」が28.6%と、男性（10.4%）に比べ10ポイント以上高くなっている。



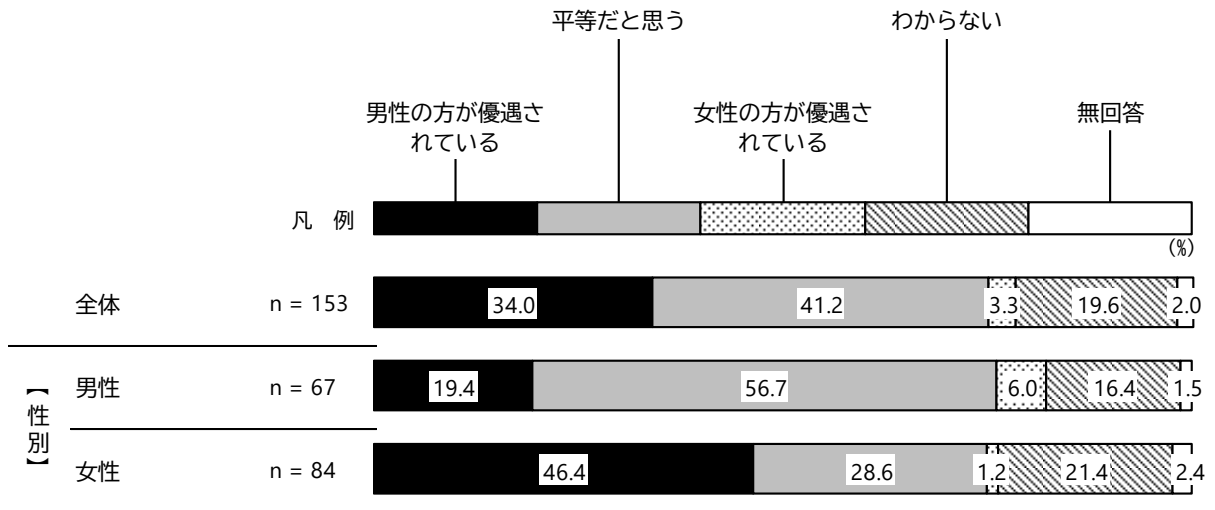
【性別／賃金】

- ▶ 性別にみると、女性では「男性の方が優遇されている」が38.1%と、男性（13.4%）に比べ20ポイント以上高くなっている。



【性別／昇進、昇格】

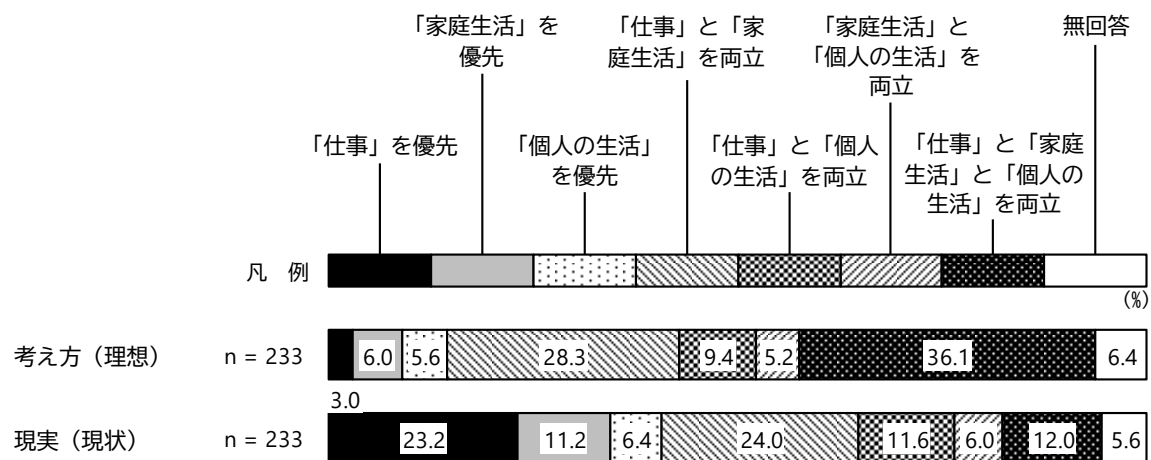
- ▶ 性別にみると、女性では「男性の方が優遇されている」が46.4%と、男性（19.4%）に比べ20ポイント以上高くなっている。



5-2 仕事と生活についての考え方（理想）と現実（現状）

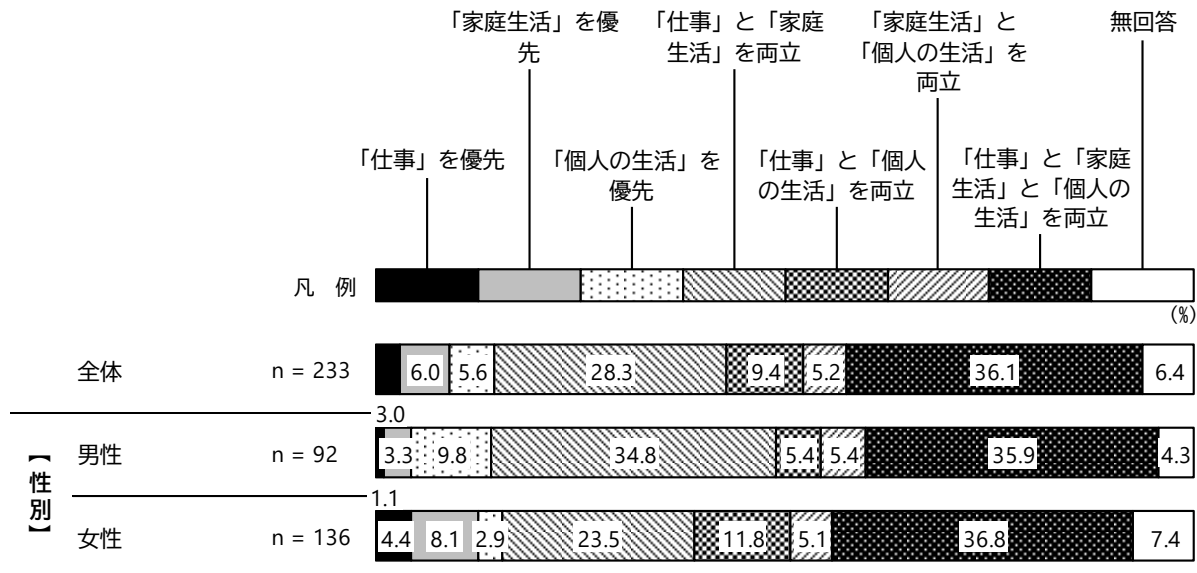
- ▶ 『考え方（理想）』では「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」を両立が36.1%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」を両立（28.3%）となっている。
- ▶ 一方、『現実（現状）』では「仕事」と「家庭生活」を両立が24.0%と最も高く、次いで「仕事」を優先が23.2%となっている。
- ▶ 『現実（現状）』では「仕事」と「家庭生活」と「個人生活」を両立が12.0%と、『考え方（理想）』に比べ20ポイント以上低くなっている。

問15 仕事と生活について、あなた自身の考え方（理想）と現実（現状）についてもっとも近いものを教えてください。（それぞれの項目ごとに、1つに○）



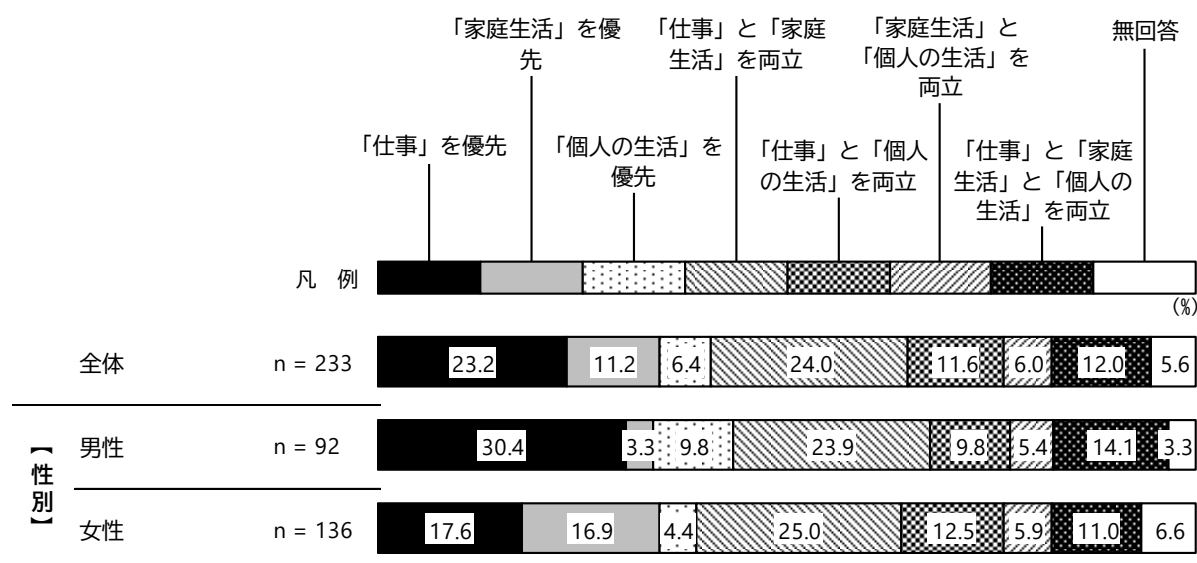
【性別／考え方（理想）】

- ▶ 性別にみると、男性では「仕事」と「家庭生活」を両立が34.8%と、女性（23.5%）に比べ10ポイント以上高くなっている。



【性別／現実（現状）】

- ▶ 性別にみると、男性では「仕事」を優先が30.4%と、女性（17.6%）に比べ10ポイント以上高くなっている。一方、女性では「家庭生活」を優先が16.9%と、男性（3.3%）に比べ10ポイント以上高くなっている。

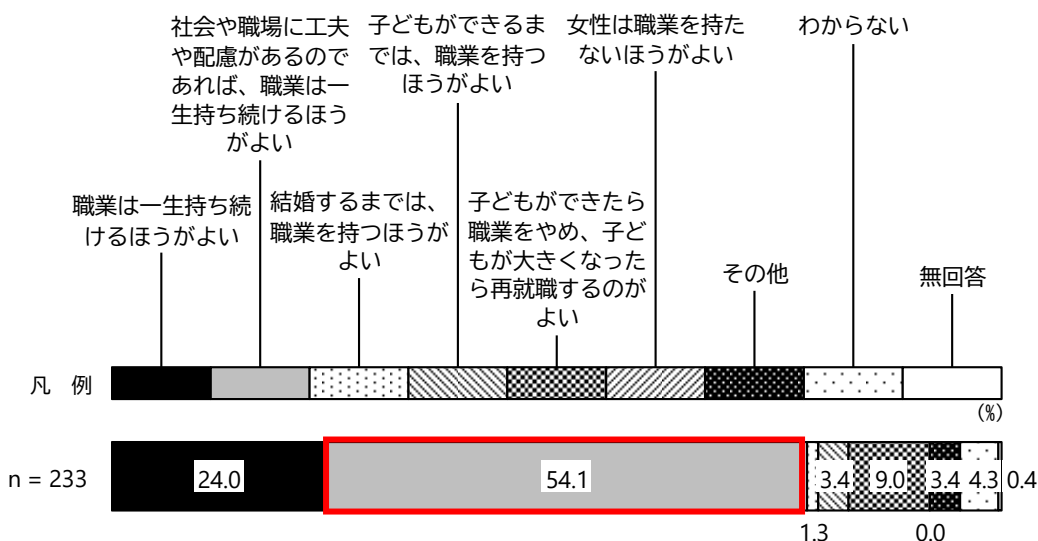


6 女性の社会進出について

6-1 女性が職業を持つことについての考え方

- ▶ 「社会や職場に工夫や配慮があるのであれば、職業は一生持ち続けるほうがよい」が54.1%と最も高く、次いで「職業は一生持ち続けるほうがよい」(24.0%)、「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再就職するのがよい」(9.0%)となっている。

問16 あなたは、女性が職業を持つことについてどう思いますか。次の中からあなたの考え方にもっとも近いものを教えてください。(1つに○)



【「その他」の具体的な意見（一部抜粋）】

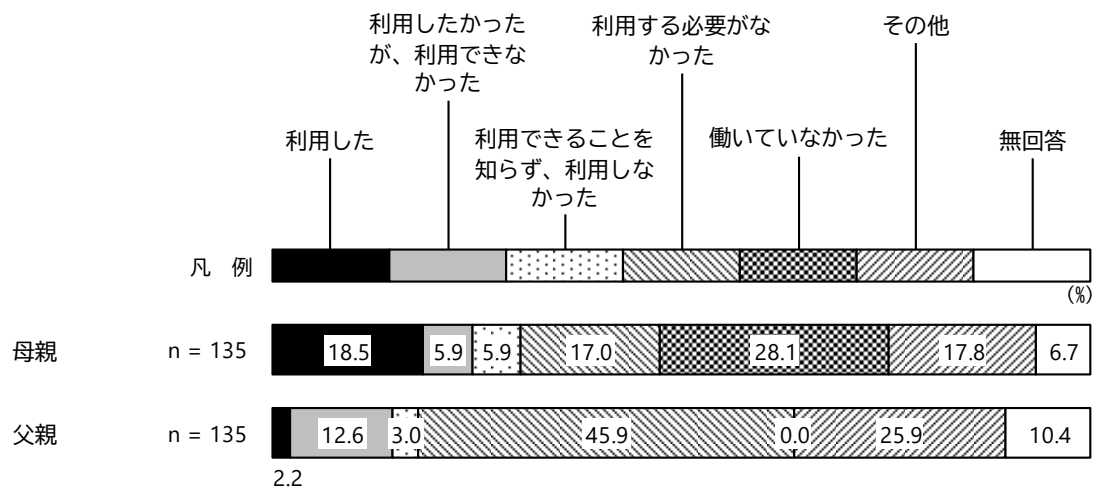
- ・育児、家庭、仕事の観点で両立する、できる環境を持つのがよい。(男性/20代)
- ・専門学校、大学在学中、就活等で職業スキルを身に着ける事は誰も咎めない、働ける時は働き、働かない事でどちらかが家庭内を調整する事で家庭収入のバランスが取れるならば働かない選択もある。(男性/40代)
- ・働きたい女性が働ける社会がよい。(女性/30代)

6-2 育児休業制度の利用

- ▶ 『父親』では「利用した」が2.2%と、『母親』(18.5%) に比べ10ポイント以上低くなっている。
- ▶ 『父親』『母親』ともに「利用したかったが、利用できなかった」「利用できることを知らず、利用しなかった」といった回答も一定数みられる。

【問5-2で、お子さんが「いる」と答えた方にお聞きします】

問17 お子さんのいる家庭にお聞きします。母親又は父親が育児休業制度を利用なさいましたか。(それぞれの項目ごとに、1つに○)

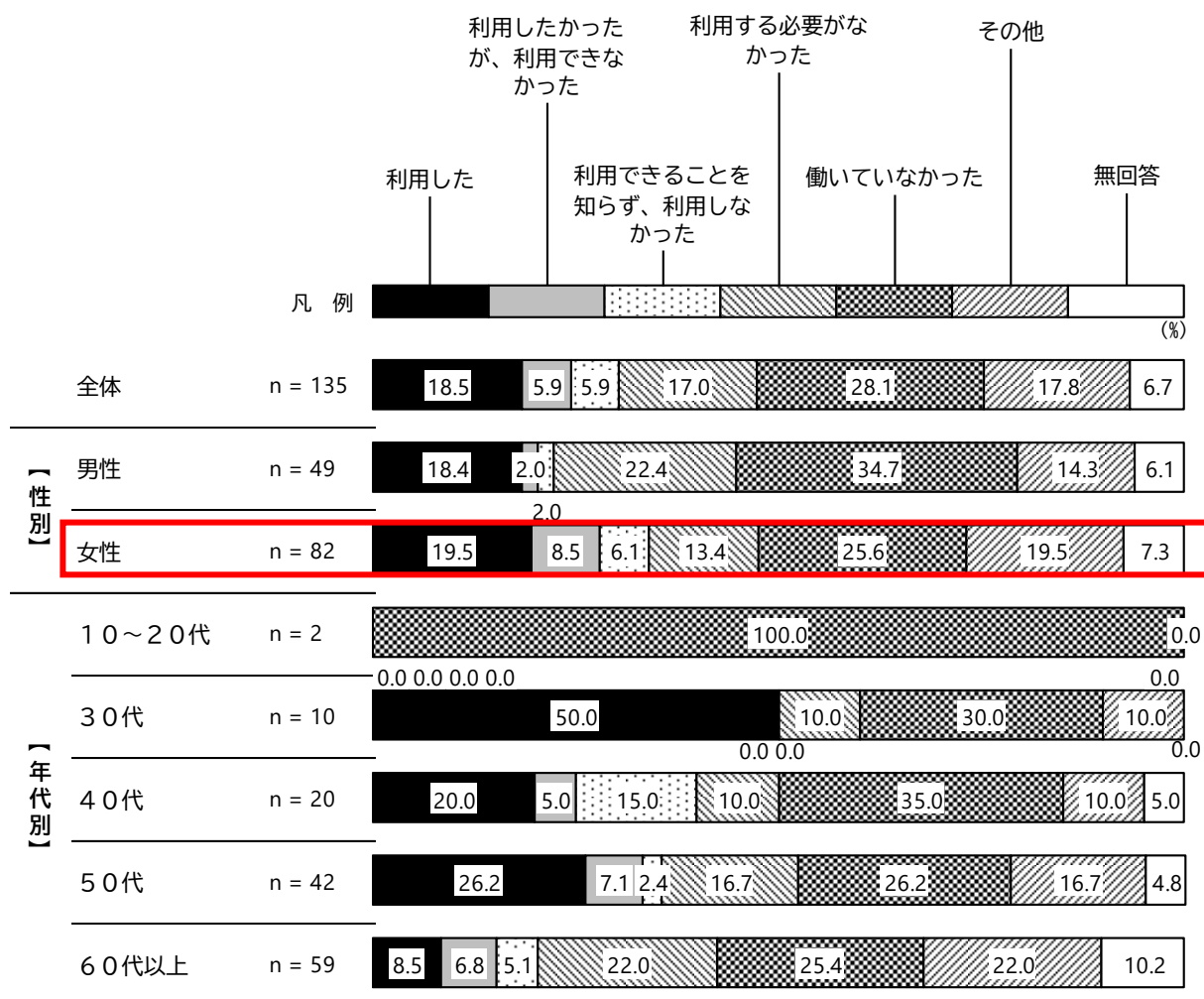


II 調査結果

6-2 育児休業制度の利用（続き）

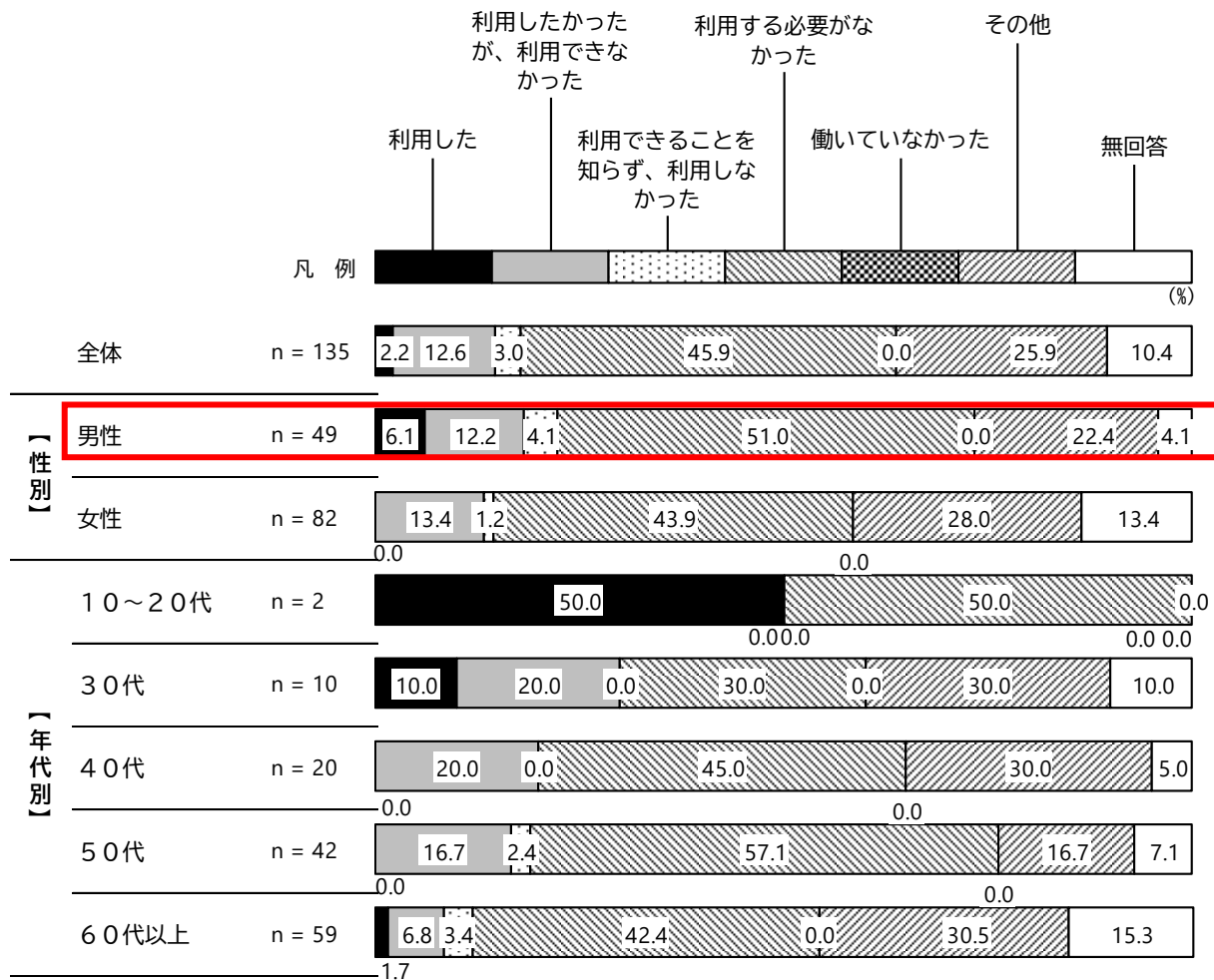
【性別・年代別／母親】

- ▶ 年代別にみると、「利用した」が30代では5割と最も高くなっているが、40代及び50代では2割以上3割未満となっている。また、40代から60代以上では「働いていなかった」が最も高くなっている。



【性別・年代別／父親】

▶ 年代別にみると、いずれの年代も「利用する必要がなかった」が最も高くなっている。一方、「利用した」「利用したかったが、利用できなかった」の回答も一定数みられる。



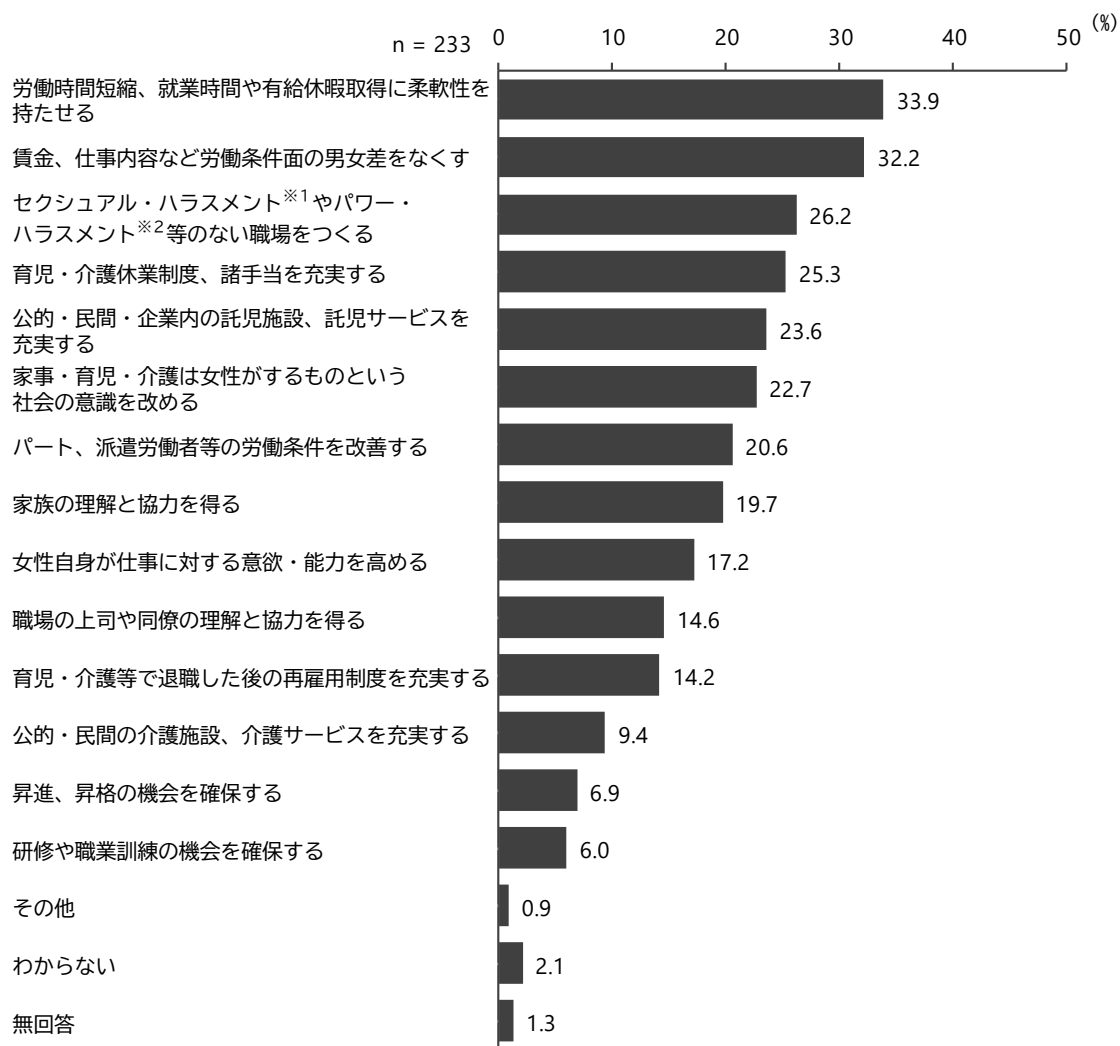
ポイント

性別でみると、女性・母親では「利用した」が19.5%となっている一方、男性・父親では6.1%と女性・母親と比べ13.4ポイント低くなっている。
 また、女性・母親では「利用したかったが、利用できなかった」が8.5%となっている一方、男性・父親では12.2%と女性・母親と比べ3.7ポイント高くなっている。

6-3 女性が働き続けるために特に必要なこと

- ▶ 「労働時間短縮、就業時間や有給休暇取得に柔軟性を持たせる」が33.9%と最も高く、次いで「賃金、仕事内容など労働条件面の男女差をなくす」(32.2%)、「セクシュアル・ハラスメント※¹やパワー・ハラスメント※²等のない職場をつくる」(26.2%)となっている。

問18 女性が働き続けるために、どのようなことが特に必要だと思いますか。(3つまで○)



※1 セクシュアル・ハラスメント：性的嫌がらせ

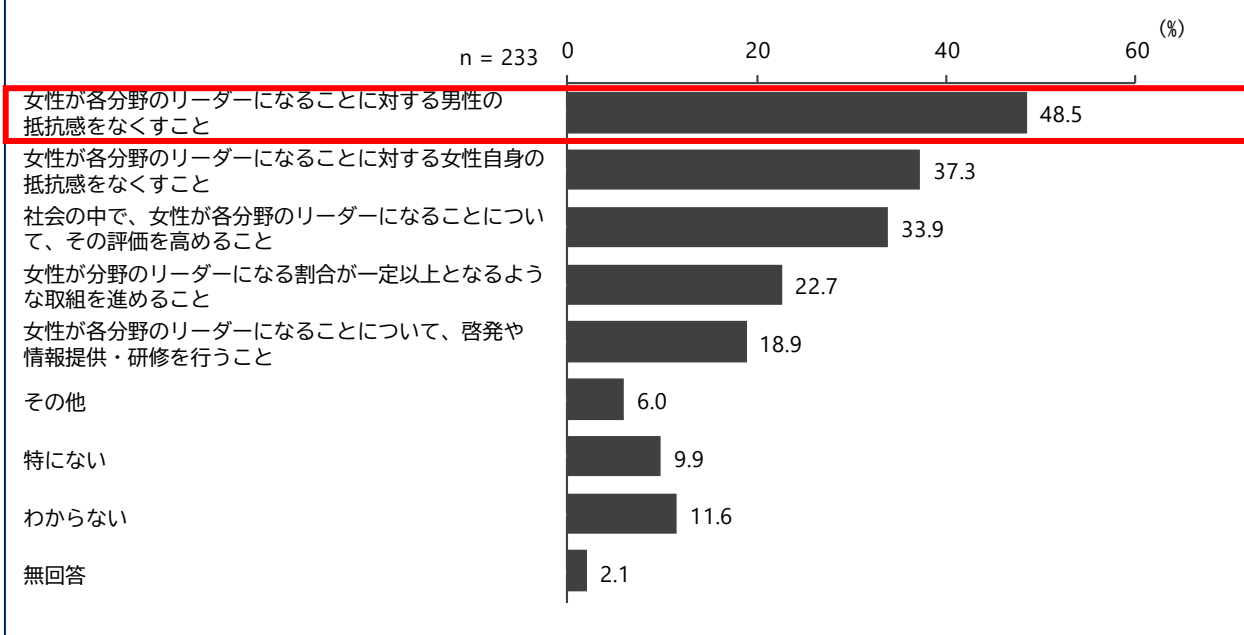
※2 パワー・ハラスメント：職務上の地位や役職などの優位性を背景に適正な業務の範囲を超えて精神的、身体的苦痛を与えること

6-4 女性が政治・経済・地域などの

各分野のリーダーになるために必要だと思うこと

- ▶ 「女性が政治・経済・地域などの各分野のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」が48.5%と最も高く、次いで「女性が政治・経済・地域などの各分野のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」(37.3%)、「社会の中で、女性が政治・経済・地域などの各分野のリーダーになることについて、その評価を高めること」(33.9%)となっている。

問19 あなたは、自治会長やPTA会長など、女性が政治・経済・地域などの各分野のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)



【「その他」の具体的な意見（一部抜粋）】

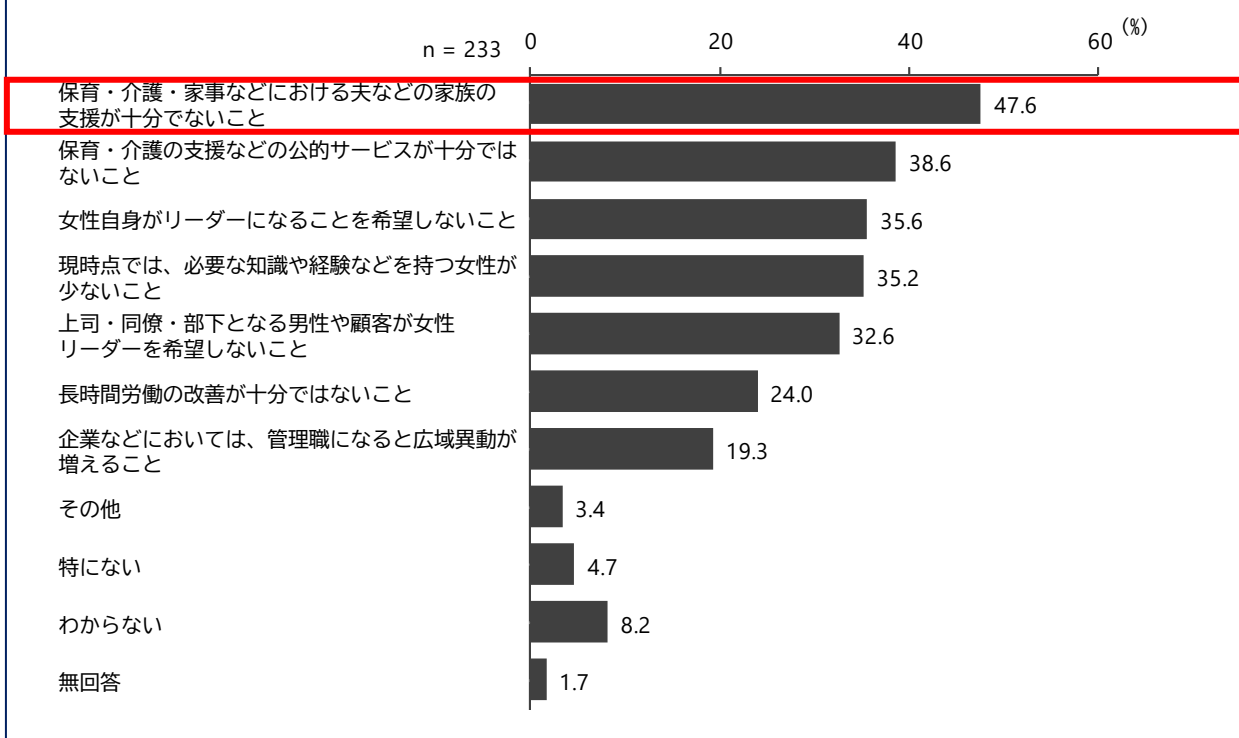
- ・〇〇会長など、家庭、子どもとの理解、協力が必要だと感じるし、選挙にはさまざまな費用もかかり、ハードルを低く設定することが必要だと思う。(女性/40代)
- ・①地域の方々の理解→この辺の地域では「女性が上(トップ)だと格好がつかない」とか「でしゃばりな女性だ」等と言われがち。②女性リーダーを支える、よきサポート役がいること③女性リーダーへの教育(男性に比べるとリーダー教育の機会が少ない。)
(女性/40代)
- ・リーダーになるためには男性、女性というより資質のある人になるべきで、その資質を見出したり育てるための研修が必要であると思う。(男性/50代)

6-5 政治・経済・地域などの

各分野で女性のリーダーを増やすときに阻害となるもの

- ▶ 「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分でないこと」が47.6%と最も高く、次いで「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」(38.6%)、「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」(35.6%)となっている。

問20 政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに阻害となるものは何だと思えますか。(〇はいくつでも)



【「その他」の具体的な意見（一部抜粋）】

- ・女性リーダー像の前例が少ない。(男性/20代)
- ・大きな視点で、国際的に活躍できる真のリーダーシップ育成組織が必要。(女性/年代不明)
- ・既婚か未婚によって違うと思いますが、既婚の場合はパートナーの理解(男女ともに必要)未婚ならば「やる気」だけだと思います。(男性/40代)

ポイント

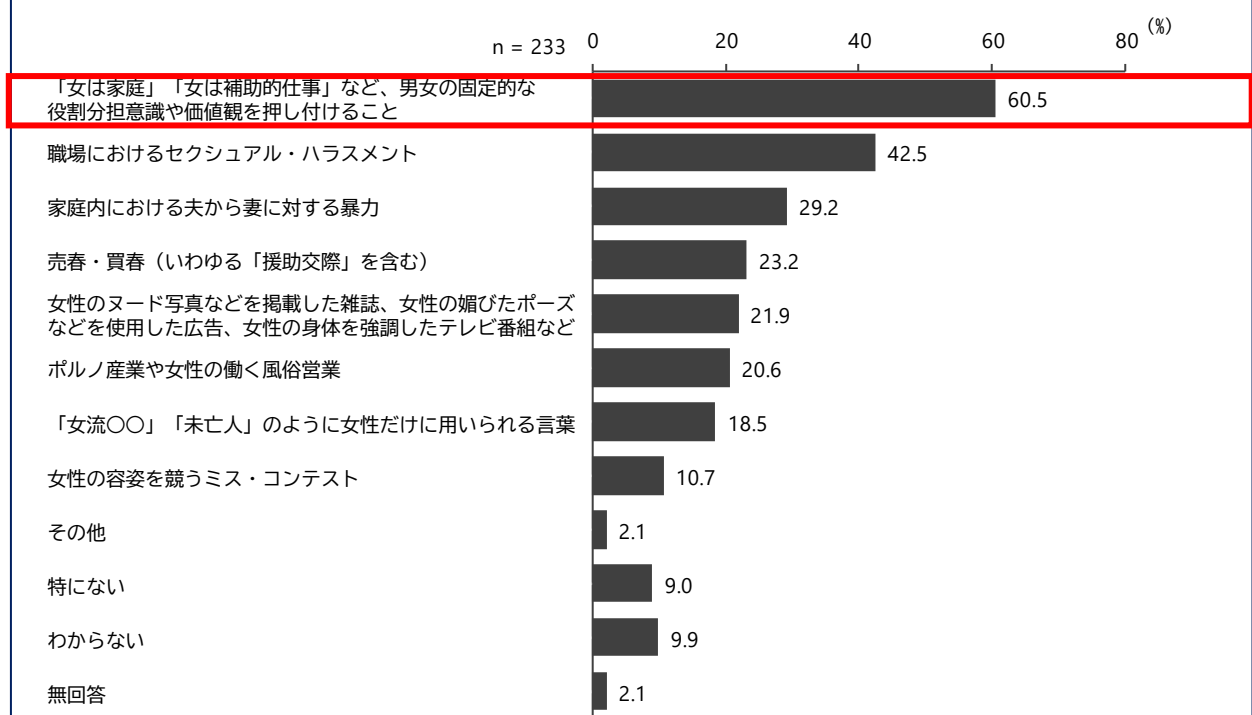
問19から21より女性の社会進出の推進に関する設問について、「女性が政治・経済・地域などの各分野のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」や「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分でないこと」「女は家庭」「女は補助的仕事」など、男女の固定的な役割分担意識や価値観を押し付けること」のように主に男女間での気持ちや意識の違いに関する選択肢への回答が多数となっている。

7 人権に関することについて

7-1 女性の人権が尊重されていないと感じること

- ▶ 「女は家庭」「女は補助的仕事」など、男女の固定的な役割分担意識や価値観を押し付けること」が60.5%と最も高く、次いで「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」(42.5%)、「家庭内における夫から妻に対する暴力」(29.2%)となっている。

問21 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことですか。次の中から選んでください。(○はいくつでも)



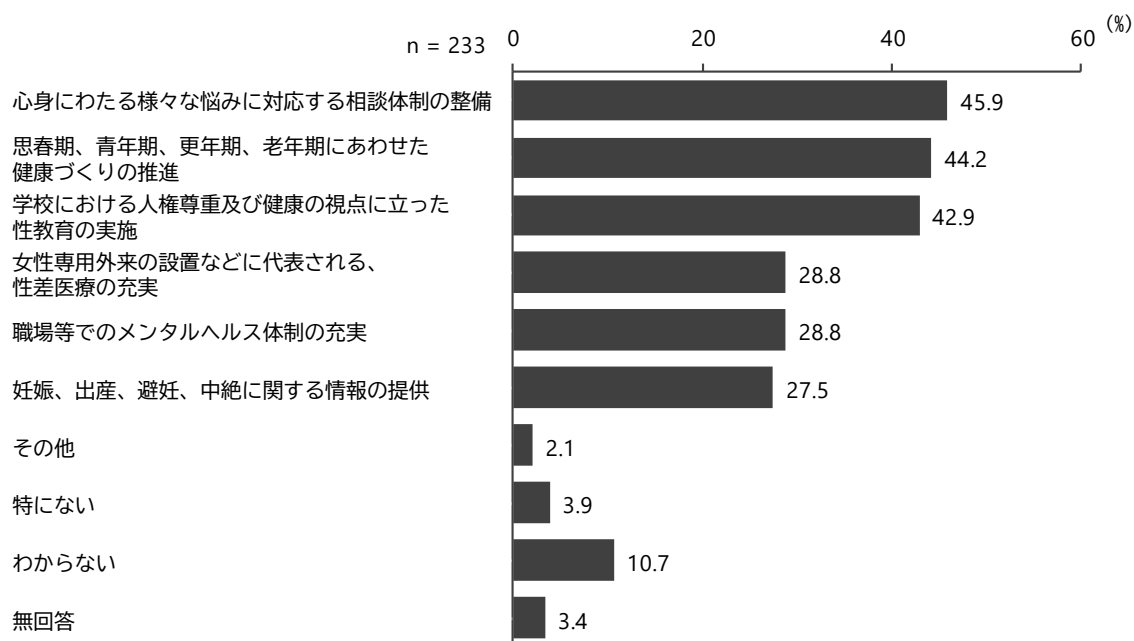
【「その他」の具体的な意見（一部抜粋）】

- ・世代間の価値観の違いが大きくあり、「出る杭は打たれる」空気感が世の中でまだある。
(女性/40代)
- ・「女性の人権」や「女性の権利」などを必要以上に喧伝すること。(男性/40代)

7-2 男女が生涯心身共に健康であるために大切だと思うこと

- ▶ 「心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の整備」が 45.9%と最も高く、次いで「思春期、青年期、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進」(44.2%)、「学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施」(42.9%)となっている。

問22 女性は、妊娠、出産を担う性であることからわかるように、男性と女性では異なる体や心の問題に直面することがあります。男女が生涯にわたり心身共に健康であるためには、どのようなことが大切だと思いますか。(〇はいくつでも)



【「その他」の具体的な意見（一部抜粋）】

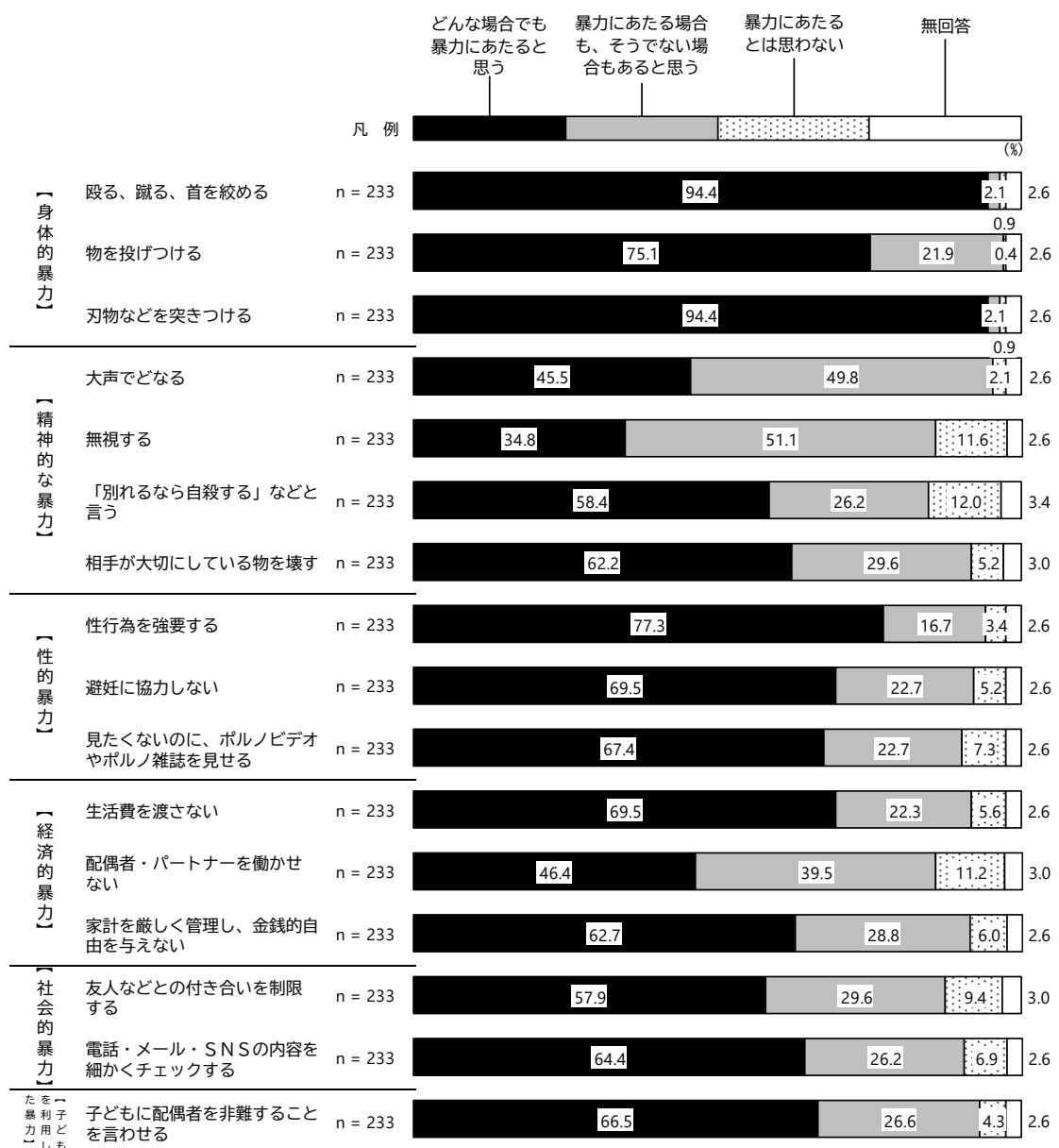
- ・ 青年期、更年期、老年期にあわせた働き方が選べる様に整備。(女性/50代)
- ・ 海外では性関係の教育はオープンなのに、日本は触れてはいけない分野的になっているのが問題。家庭でも普通に会話に上がるくらいにならないと、心身ともにケアなんてまず無理だと思う。(女性/30代)
- ・ 柔軟な労働条件で働けるような企業の体制。(男性/50代)

8 暴力に関することについて

8-1 夫婦・パートナーの間で暴力にあたると思うこと

- ▶ 【身体的暴力】では、いずれの項目も「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高く、特に『殴る、蹴る、首を絞める』『刃物などを突きつける』では同割合が9割を超えている。
- ▶ その他の項目でも、「暴力にあたるとは思わない」は1割未満から2割程度と低いものの、『大声でどなる』『無視する』では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」よりも、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の回答割合が高くなっている。

問23 あなたは、次にあげた①～⑬のことが夫婦・パートナーの間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。(それぞれの項目ごとに、1つに○)

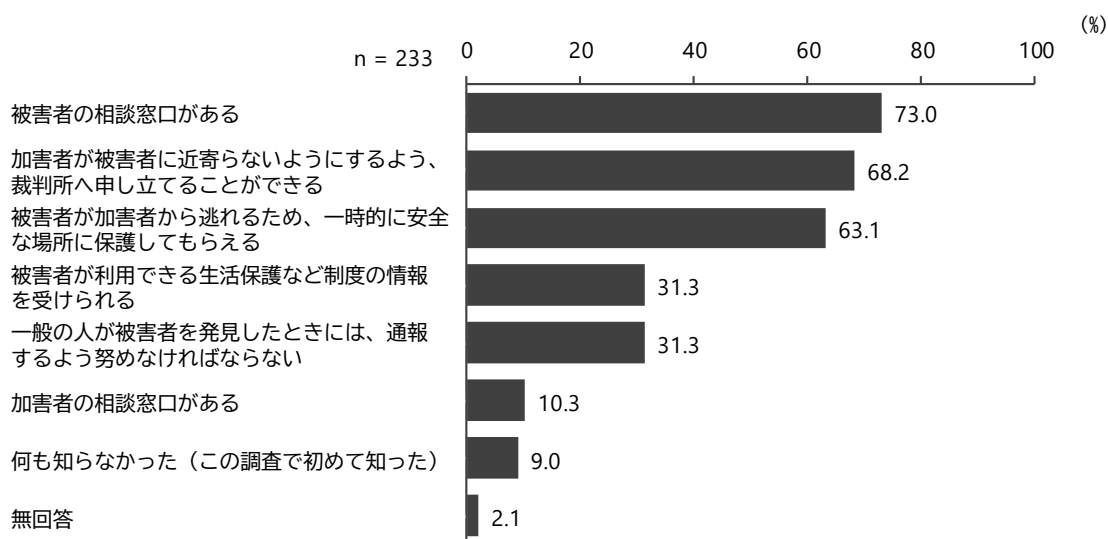


8-2 配偶者や恋人などからの暴力及び被害者の保護に関して

知っていること

- ▶ 「被害者の相談窓口がある」が73.0%と最も高く、次いで「加害者が被害者に近寄らないようにするよう、裁判所へ申し立てることができる」(68.2%)、「被害者が加害者から逃れるため、一時的に安全な場所に保護してもらえる」(63.1%)となっている。

問24 配偶者や恋人などからの暴力及び被害者の保護に関して、知っていることをすべて選んでください。(○はいくつでも)



9 性的マイノリティ※について

※ 性的マイノリティ（または LGBT 等）：恋愛対象が同性や両性の方、こころの性とからだの性が一致しない、あるいはこころの性がはっきりしないなどといった人々を広く表す総称のこと。「セクシュアルマイノリティ」「性的少数者」などと呼ばれることもあります。

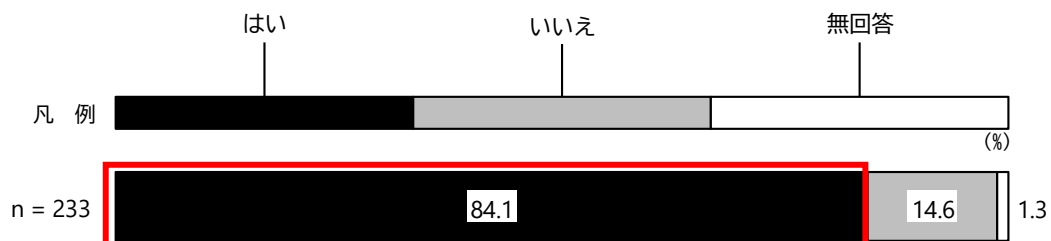
性的マイノリティを表す言葉の1つとして、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字をとった「LGBT」が使われることもありますが、それ以外にもクエスチョニング（性を決められない、決めていない）など、様々な性のあり方があります。

9-1 性的マイノリティ（または LGBT 等）という言葉を知っているか

▶ 「はい」が84.1%、「いいえ」が14.6%となっている。

問25 あなたは、性的マイノリティ（または LGBT 等）という言葉を知っていますか。

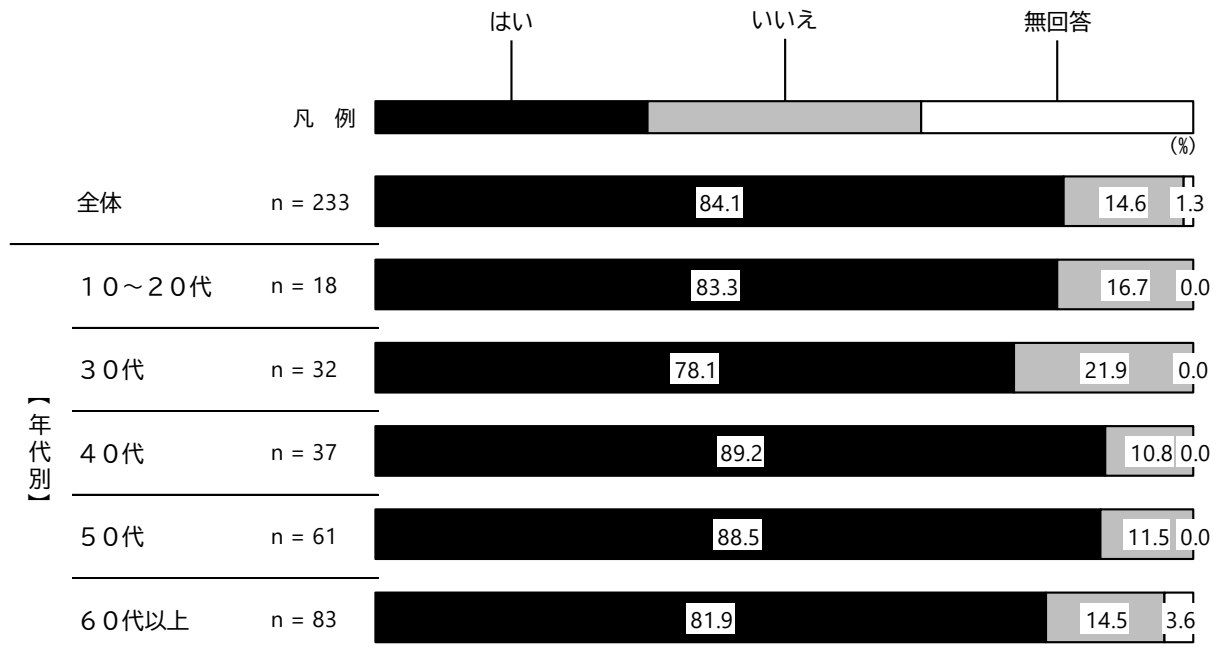
(1つに○)



II 調査結果

【年代別／性的マイノリティ（またはLGBT等）という言葉を知っているか】

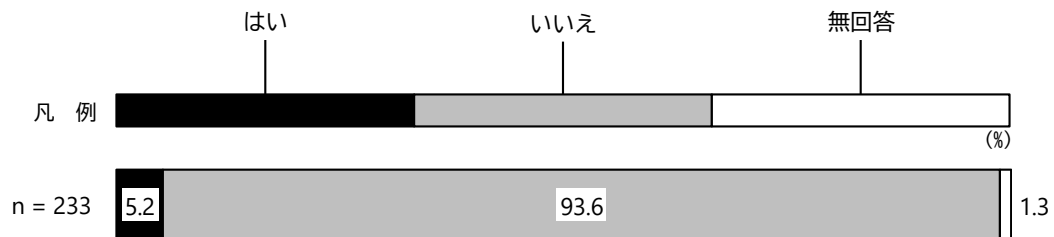
▶ 年代別にみると、いずれの年代も「はい」が7割を超えている。



9-2 今までに自分の体の性、心の性または性的指向に悩んだことがあるか

▶ 「はい」が5.2%、「いいえ」が93.6%となっている。

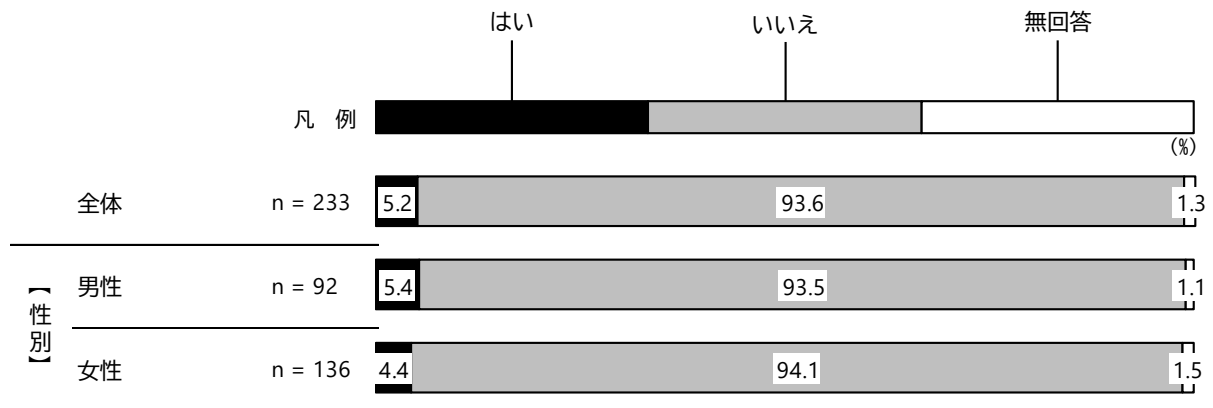
問26 あなたは、今までに自分の体の性、心の性または性的指向に悩んだことがありますか。(1つに○)



II 調査結果

【性別／今までに自分の体の性、心の性または性的指向に悩んだことがあるか】

▶ 性別にみると、男女ともに「はい」は約5%となっている。

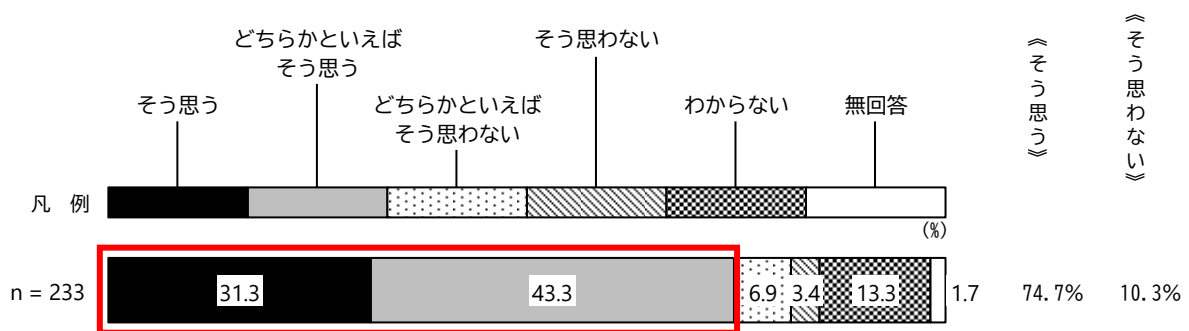


9-3 性的マイノリティ（またはLGBT等）の方が

生活しづらい社会だと思うか

- ▶ 「どちらかといえばそう思う」が43.3%と最も高く、次いで「そう思う」(31.3%)、「どちらかといえばそう思わない」(6.9%)となっている。
- ▶ 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を足し合わせた《そう思う》は74.7%となっている。

問27 現在、性的マイノリティ（またはLGBT等）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。（1つに○）



II 調査結果

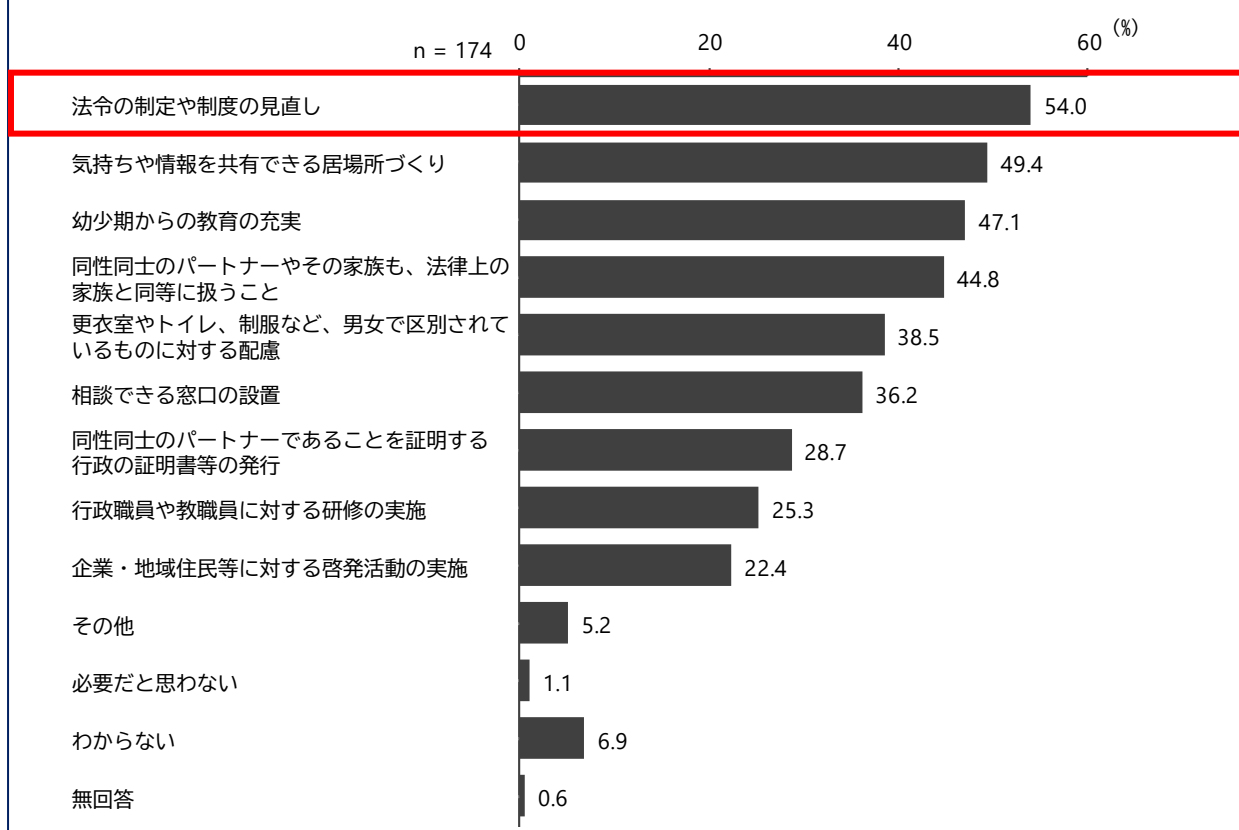
9-4 性的マイノリティ（またはLGBT等）の方が

生活しやすくなるために必要な対策

- ▶ 「法令の制定や制度の見直し」が54.0%と最も高く、次いで「気持ちや情報を共有できる居場所づくり」(49.4%)、「幼少期からの教育の充実」(47.1%)となっている。

【問27で、「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

問28 性的マイノリティ（またはLGBT等）の方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。
(〇はいくつでも)



【「その他」の具体的な意見（一部抜粋）】

- ・国、政府、官僚、政治家議員、都道府県知事、市町村町と議員、各行政からの支援、理解力、協力性、団結力、が最も必要で大事、当事者の人達が悩み苦しむ。(男性/40代)
- ・心理カウンセラーによる伴走。(女性/年代不明)

ポイント

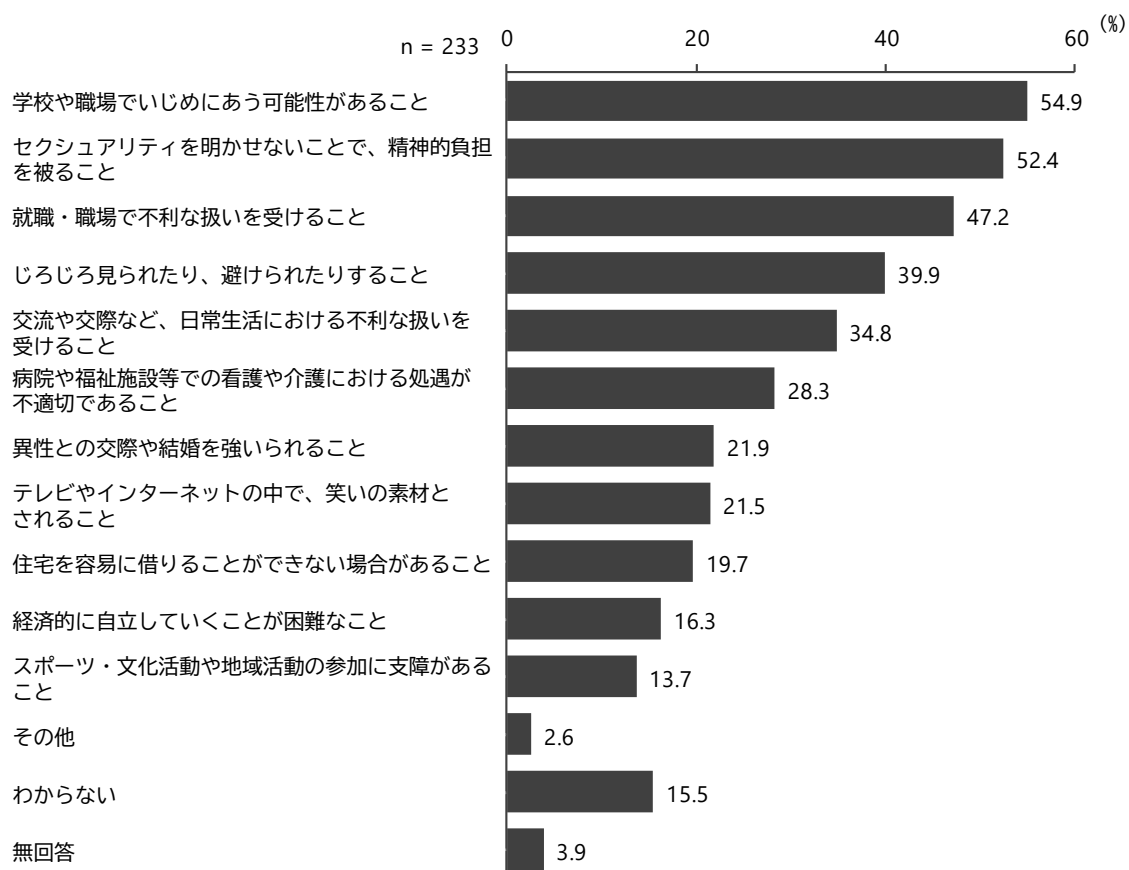
問27・28より74.7%の人が性的マイノリティ（またはLGBT等）の方々が生きづらいと感じており、そのような方々が生きやすくなるために、「法令の制定や制度の見直し」が必要な対策として最も回答が多くなっている。

9-5 性的マイノリティ（またはLGBT等）の方が

感じている問題と思われるもの

- ▶ 「学校や職場でいじめにあう可能性があること」が54.9%と最も高く、次いで「セクシュアリティを明かせないことで、精神的負担を被ること」(52.4%)、「就職・職場で不利な扱いを受けること」(47.2%)となっている。

問29 性的マイノリティ（またはLGBT等）の方々が感じている問題と思われるものはどれだと思いますか。（〇はいくつでも）



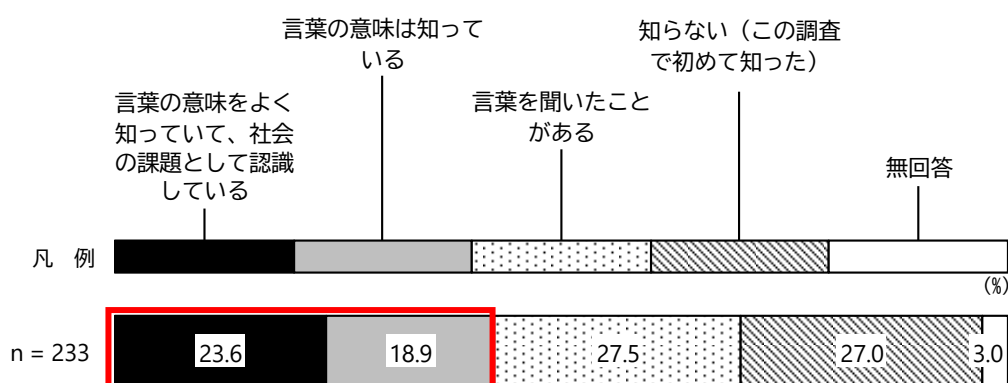
【「その他」の具体的な意見（一部抜粋）】

- ・LGBT等というくくりで区別されるので、少数派の異端だと感じる事。（男性／20代）
- ・ありのままの自分で日常を過ごせないこと。（女性／30代）

9-6 性的マイノリティの「パートナーシップ制度※」の認知度

- ▶ 「言葉を聞いたことがある」が27.5%と最も高く、次いで「知らない（この調査で初めて知った）」(27.0%)、「言葉の意味をよく知っていて、社会の課題として認識している」(23.6%)となっている。
- ▶ 「言葉の意味をよく知っていて、社会の課題として認識している」と「言葉の意味は知っている」を足し合わせた《言葉の意味まで知っている》は42.5%となっている。

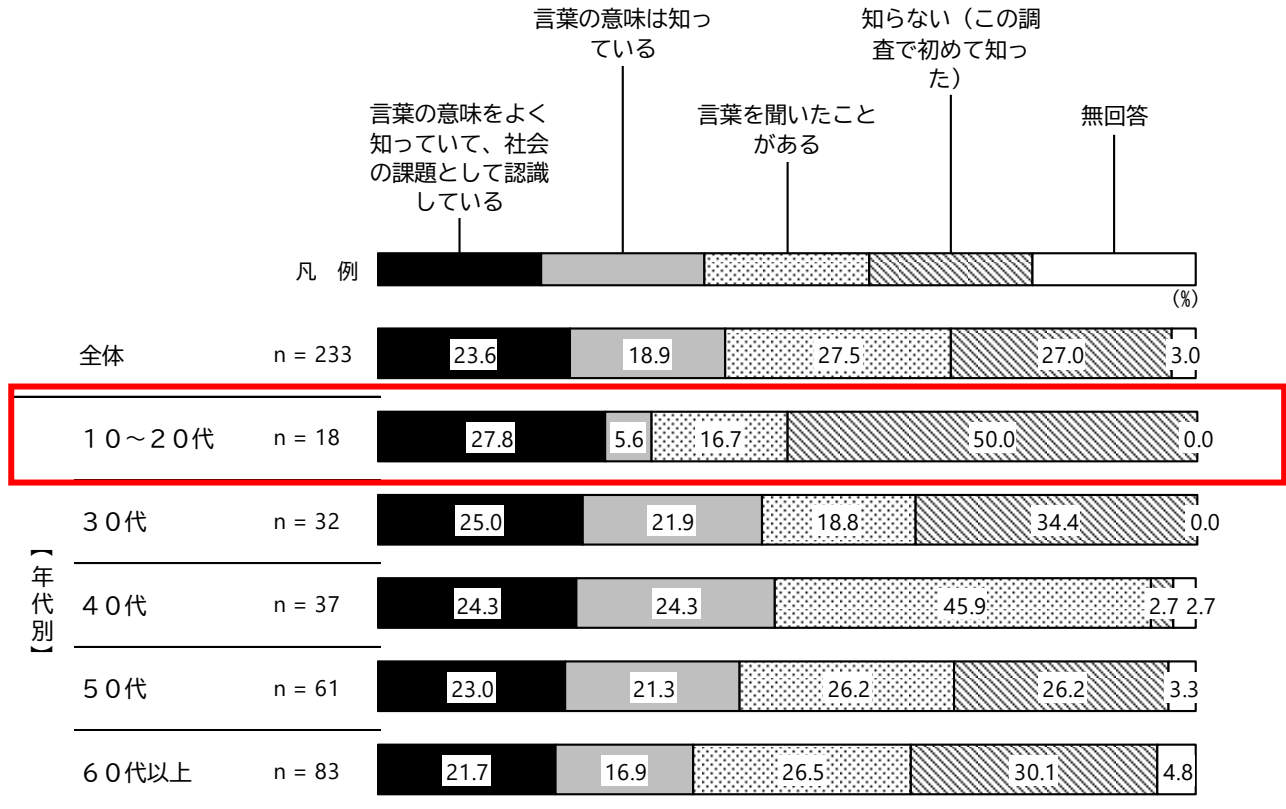
問30 性的マイノリティの「パートナーシップ制度※」について、どの程度ご存じですか。
(1つに○)



※パートナーシップ制度：一方または双方が性的マイノリティであるお二人が、互いを人生のパートナーとして日常生活において相互に協力し合うことを約束した関係（パートナーシップ）であることを自治体に宣誓できる制度です。自治体が、宣誓した事実を証明する宣誓証明書等を交付し、お二人のパートナーシップ関係を尊重することで、精神的な安心感や生きづらさの軽減、社会的な理解の促進につなげます。

【年代別／性的マイノリティの「パートナーシップ制度」の認知度】

▶ 年代別にみると、10～20代では「知らない（この調査で初めて知った）」が50.0%と半数を占め、全体と比べ20ポイント以上高くなっている。



ポイント

問25・30より「性的マイノリティ（またはLGBT等）」の認知度は84.1%に対して、「パートナーシップ制度」の言葉の意味まで知っている人は42.5%となっている。
 年代別にみると、特に10～20代では「知らない（この調査で初めて知った）」が50.0%と半数を占めている。

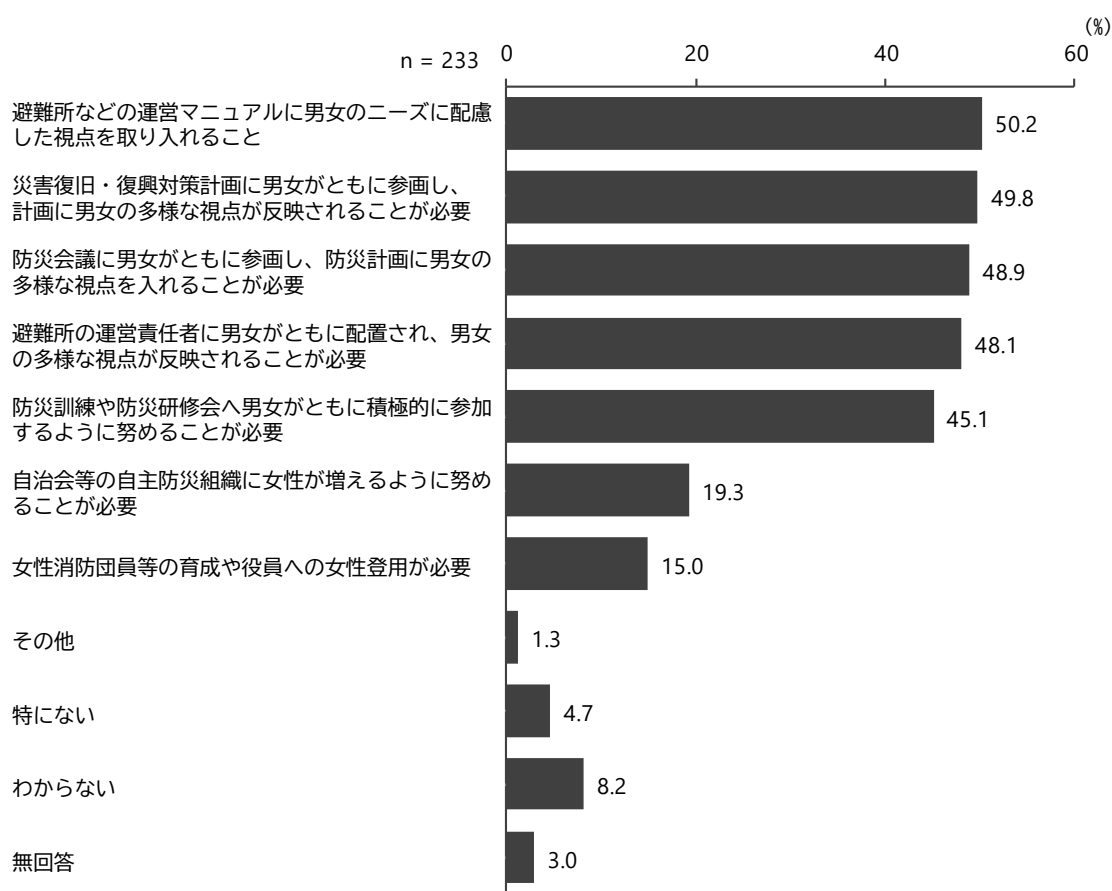
10 防災・災害対策について

10-1 防災・災害対策において、男女共同参画を推進していくために

必要なこと

- ▶ 「自治会等の自主防災組織に女性が増えるように努めることが必要」「女性消防団員等の育成や役員への女性登用が必要」を除き、約半数が防災・災害対策において、男女共同参画の必要性を感じている。

問31 防災・災害対策において、男女共同参画を推進していくために必要なことについて、あなたの考えに近いものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)



【「その他」の具体的な意見（一部抜粋）】

- ・行政、地域、自治体、すべて全体における協力、団結力、協調性、チームワーク、声の掛け合い、自助と共助、思いやり。(男性/40代)
- ・人口の割合は男女変わりません。男女共に協力するのが当然。災害時には男性が得意な事、女性が得意な事が沢山あります。(男性/60代)

11

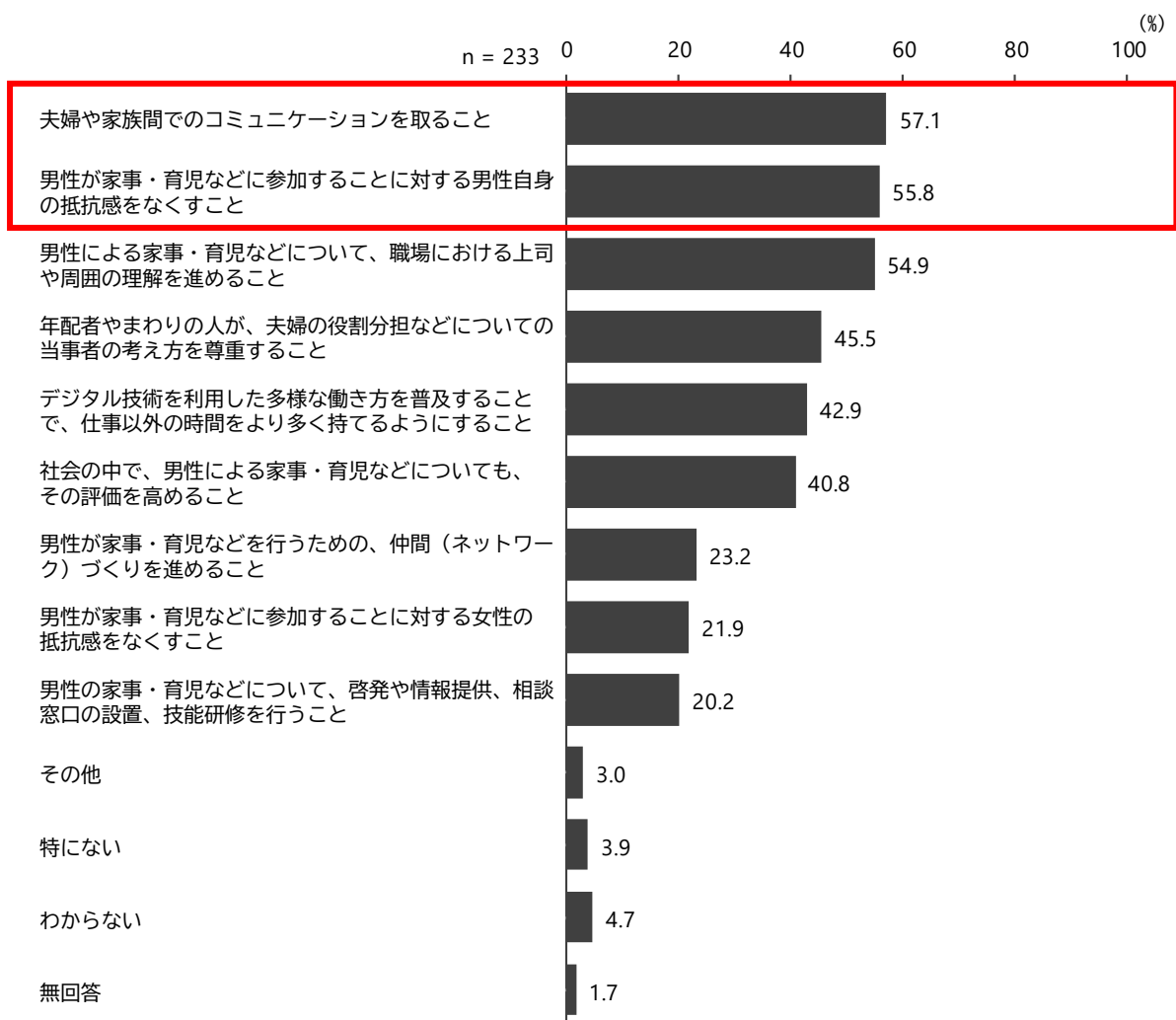
男女共同参画社会に向けた取組について

11-1 今後、男性が家事、子育て、介護等に積極的に参加するために

必要なこと

- ▶ 「夫婦や家族間でのコミュニケーションを取ること」(57.1%)、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(55.8%)、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」(54.9%)はいずれも半数を超えている。

問32 今後、男性が家事、子育て、介護等に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)



11-1 今後、男性が家事、子育て、介護等に積極的に参加するために 必要なこと（続き）

【「その他」の具体的な意見（一部抜粋）】

- ・ 子供の時からの教育。(女性/40代)
- ・ 仕事が肉体労働だと家事育児に協力する余力もなく、休業制度や手当がない仕事だとますます協力してもらえず、女性の負担が増えるのが現実。経済的な不安をなくすことも重要だと思う。(女性/40代)
- ・ 夫婦がそれぞれ「こうあるべき」を求めすぎず、対等な関係を築けることが大事であるため、そのような風潮が広まることが重要。(男性/30代)

ポイント

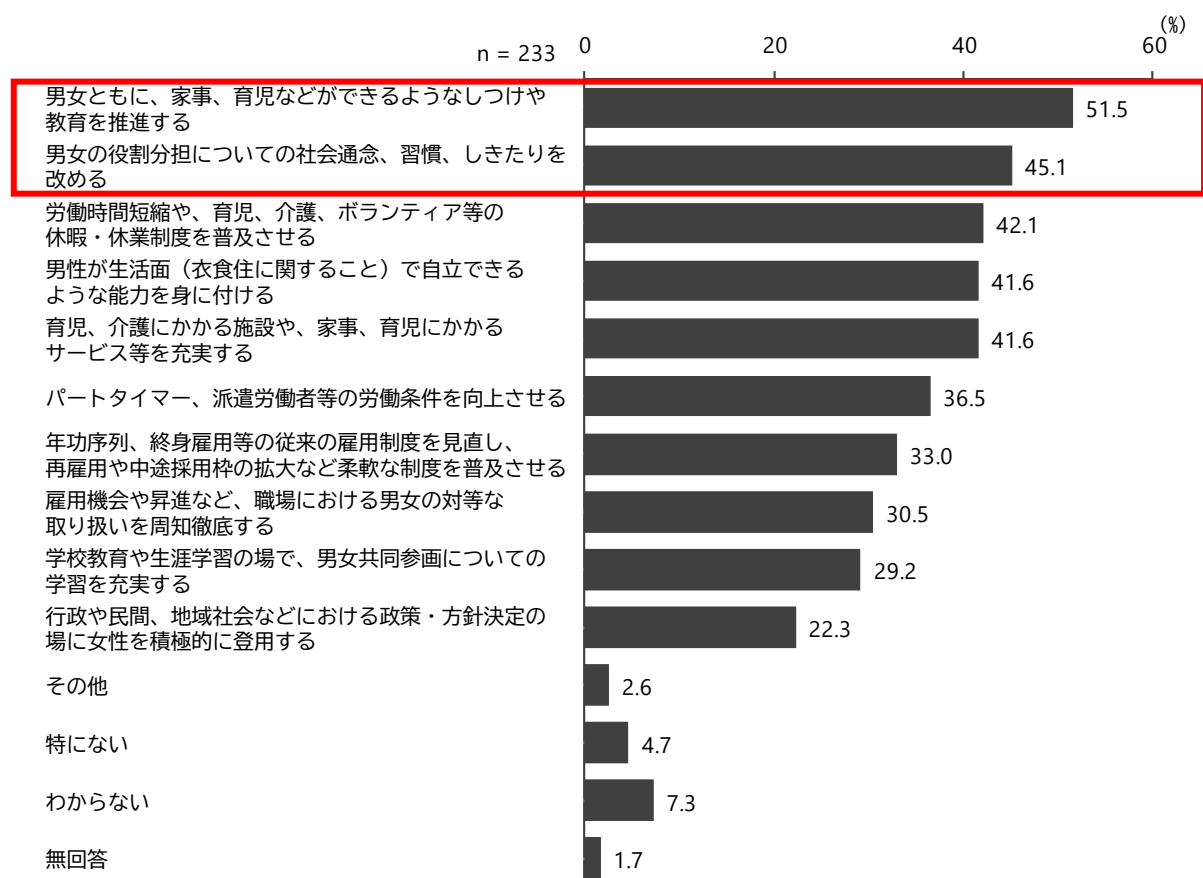
問19から21より女性の社会進出の推進に関する設問について、主に男女間での気持ちや意識の違いに関する選択肢への回答が多数となっていたが、男性の家事、子育て、介護等についても「夫婦や家族間でのコミュニケーションを取ること」「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」といった男女間での気持ちや意識の違いに関する選択肢への回答が多数となっている。

11-2 女性が仕事、家庭、育児、介護、地域活動等に

積極的に参加するために必要なこと

- ▶ 「男女ともに、家事、育児などができるようなしつけや教育を推進する」が51.5%と最も高く、次いで「男女の役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改める」(45.1%)、「労働時間短縮や、育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(42.1%)となっている。

問33 今後、女性が仕事、家庭、育児、介護、地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)



【「その他」の具体的な意見（一部抜粋）】

- ・106万の年収の壁の撤廃。高収入OKにする。22才までの子育て期間中は扶養OKにするべき。配偶者控除も同様。(女性/年代不明)
- ・男性が生活面で独り立ちできるようにするだけでなく、女性も経済的に自立できるように社会的働きが必要。(男性/50代)

ポイント

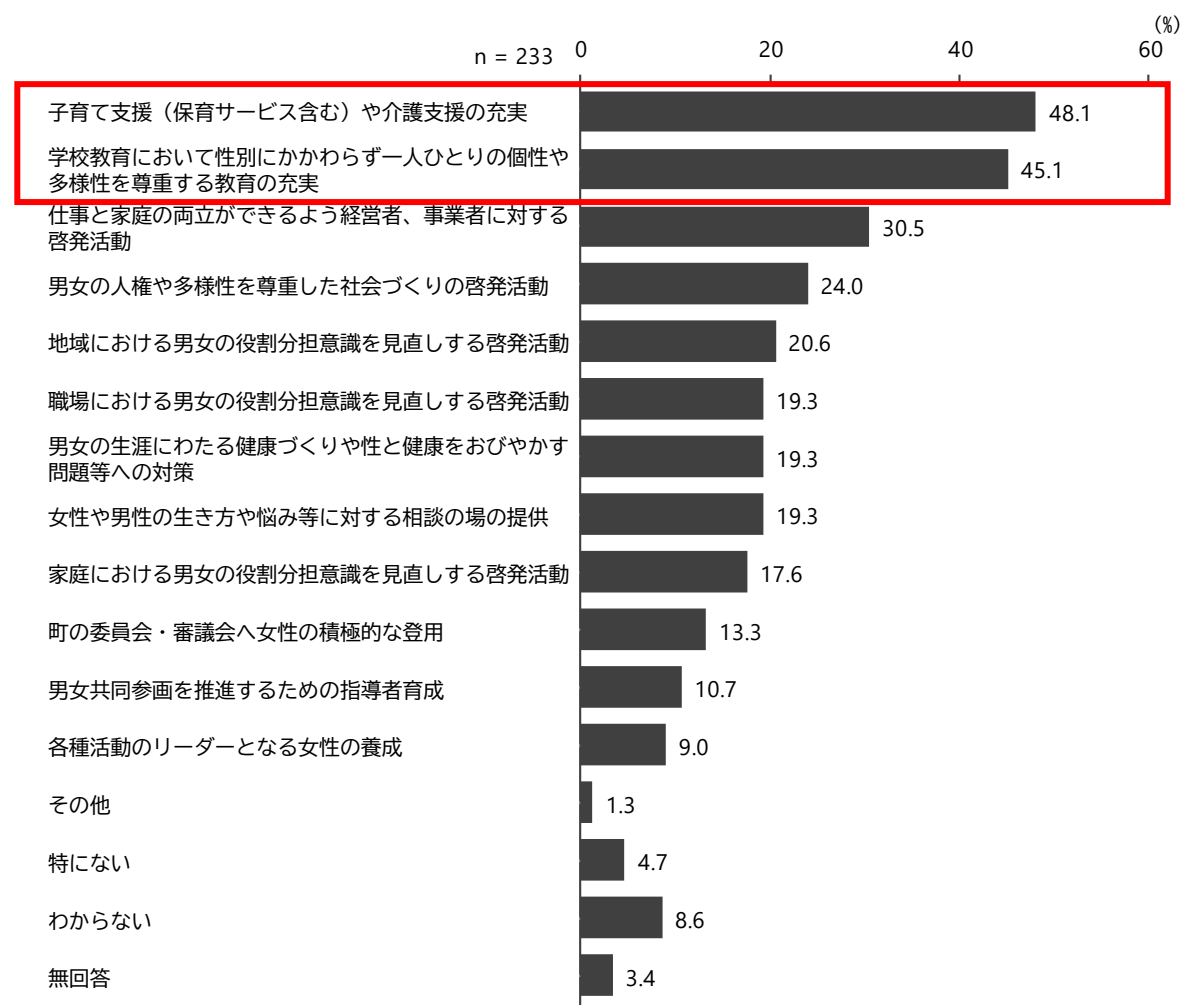
問6より各分野の中での男女の地位の平等さでは、『社会通念、慣習、しきたりで』で《男性優遇》との回答が多く《女性優遇》との差が目立っていたところだが、問33の女性の仕事、家庭、育児、介護、地域活動等に積極的に参加するために必要なことでも、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める」ことが必要であるとの回答が45.1%で第2位と多くなっている。

II 調査結果

11-3 男女共同参画社会の形成のため、富岡町が力をいれたらよいこと

- ▶ 「子育て支援（保育サービス含む）や介護支援の充実」が48.1%と最も高く、次いで「学校教育において性別にかかわらず一人ひとりの個性や多様性を尊重する教育の充実」（45.1%）、「仕事と家庭の両立ができるよう経営者、事業者に対する啓発活動」（30.5%）となっている。

問34 男女共同参画社会を形成していくために、富岡町は今後どのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。（5つまで○）



【「その他」の具体的な意見（一部抜粋）】

- ・ 町議の男女比を見直す。（男性／10代）
- ・ 町として、どんな社会を作りたいかだと思います。男性がどうするとか女性がどうするとか？ではなく、女性だけをあつめてどうしたいか聞くべき。（女性／50代）

ポイント

前述の通り、問3 2の男性の参画へ向けた取組では「夫婦や家族間でのコミュニケーションを取る事」「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」といった男女間での気持ちや意識の違いに関する回答が、問3 3の女性の参画へ向けた取組では「男女の役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改める」といった社会通念やしきたりに関する回答が多くなっている。

また、問3 4の男女共同参画社会の形成のため、富岡町が力をいれたらよいことでは「子育て支援（保育サービス含む）や介護支援の充実」への回答が最も多くなっている。

なお、問3 3の「男女ともに、家事、育児などができようなしつけや教育を推進する」、問3 4の「学校教育において性別にかかわらず一人ひとりの個性や多様性を尊重する教育の充実」といった、教育に関する選択肢への回答も多くなっている。

Ⅲ 自由意見の分析

1 自由意見の主な回答

1 具体的な意見の分類

- ▶ 「男女共同参画社会の形成に関する意識について」が11件と最も多く、次いで「仕事について」(7件)、「人権の尊重について」(6件)となっている。

問35 男女共同参画社会の実現に向けて、ご意見、ご要望、アイデア等がありましたら、お聞かせください。

順位	項目	件数
1	男女共同参画社会の形成に関する意識について	11
2	仕事について	7
3	人権の尊重について	6
4	男女の地位に関する意識について	5
5	行政への要望について	4
5	子育てや家庭生活について	4
5	居住地域の慣習や考え方について	4
8	健康や老後の暮らしについて	1
-	その他	8
-	特にない	6
意見総計		50

2 具体的な意見の内容 ※一部意見を抜粋して掲載

(1) 男女共同参画社会の形成に関する意識について

No.	性別	年齢	意見内容
1	男性	60代	現代社会においては男女共同参画社会の実現は難しいものがあり、意識の形成は日常生活等からの経験で学ぶもので、次世代を担う子供達に幼児期から男女共同参画の教育、学習機会を充実させ意識を養うことが大事かと思う。
2	女性	年代不明	男女共同参画が進んでいる北欧社会を参考にプログラムが必要。ジェンダー平等。機会参画への平等。職業選択、他。
3	女性	30代	とにかくコミュニケーションを取れる場や機会を、型にはめず、ゆるやかにつくっていくことが必要だと思う。グリーンフィールドを活用した、マルシェやイベント、オープンカフェを希望します。

(2) 仕事について

No.	性別	年齢	意見内容
1	女性	50代	非正規雇用を減らし、正規雇用をふやすことで生活の安定を図るべきだと思います。
2	女性	50代	女性は、男性と体のつくりが違います。そのうえ、妊娠、出産、閉経、更年期、老年期と変化も著しく負担も大きいです。その都度で働き方が選べ（生活水準が下らない様に）確保できたら、心にも余裕がでて自分自身をもっと大切にできる様になるのではないのでしょうか？
3	女性	30代	育児休暇を与える企業、団体へ町独自の助成金を出す。

(3) 人権の尊重について

No.	性別	年齢	意見内容
1	男性	60代	男女のへだたりを無くし、色々な事に対して尊重出来る世の中にする事。
2	男性	60代	男性がほとんどとなっている世帯主制度をやめなければ男性上位の考え方は、変らない。世帯主の主がえらそうに見える責任感が必要。男だから家族を養う重任がある。また、えらそうにするため、一人一人の人権を尊重するのであれば、世帯主制度を廃止する必要がある。
3	男性	40代	中でも書いたが、過剰なフェミニズム発言発信はかえって分断を生む。過去の時代を考えれば、緩やかではあるが、確実に男女共同参画社会は実現に向けて動いている。このままの温度感を持続させることが肝要で、必要以上の男女同権への宣伝は逆効果であると感じる。ゆっくりとマイルドに実現に向けて地道に行動を持続させることが重要。

Ⅲ 自由意見の分析

2 具体的な意見の内容（続き）

（４）男女の地位に関する意識について

No.	性別	年齢	意見内容
1	男性	20代	「男だから」「女だから」こういう言葉を使うのは年配の方がほとんどだと思います。
2	女性	40代	男性には男性の、女性には女性の、それぞれの得手不得手があるのは当然なので、無理な平等を作ろうとするより、それぞれが助け合える社会にする事が高齢者にも子供達にも良い影響となると思います。
3	男性	30代	男女平等の文句の下、事あるごとに女性を無理して入れると絶対に支障をきたしますのでよくよく検討した後に行動していただきたいです。

（５）行政への要望について

No.	性別	年齢	意見内容
1	女性	50代	現実問題として、富岡町の住民は町外で生活している方が多い。町内には新たに入ってきた方が多く、そういう人が役場や町の機関で働いているなら、元々の方の採用をすすめ、男女共同についても考えてほしい。また、町外の方が住む地治体との話し合いを行ってほしい。
2	女性	50代	どうしたいかは下から意見をきいて作る事から始めるべきです。
3	女性	50代	富岡町はもっといろいろな事に目を向けるべきだと思います。議員、町長は、他県、他町村などの参考になる取り組みを勉強して欲しいと思います。富山県砺波市のコンパクトシティなど老若男女、LBGTの方達が安心して住める場所を目指して欲しい。まずは若い方が、町に戻らなければ、男女共同参画社会は無理だと感じます。住み続けられる町をまず考えて欲しい。今だと建物ばかりを建てるだけで何も見えてこない！！

（６）子育てや家庭生活について

No.	性別	年齢	意見内容
1	女性	30代	育児休暇を与える企業、団体へ町独自の助成金を出す。
2	女性	30代	性や心身関係の問題は、まず家庭内でどれだけオープンに会話して相談できるかによると思うので、家庭内で話題にできるような情報の提供があればいいと思う(話しやすい環境を作るということで、幼い時からそういった内容の絵本を読み聞かせたりするための本の紹介とか)。

(7) 居住地域の慣習や考え方について

No.	性別	年齢	意見内容
1	男性	50代	復興なかばの富岡町において、成熟社会の課題であるような男女共同、性的マイノリティの課題をとりあげる段階にあるのか疑問。男女の別性的マイノリティの別に関わらず能力ある者、適材適所を強力に進めていく事が、復興半ばの浜通りエリアの全町村に必要な取り組みであって、その成果が結果、理想的な活力ある地域作りにつながるのではないかと考えます。誰もがチャレンジできる社会が真の男女共同参画社会と考えます。
2	女性	40代	現在の町の課題は男女間のギャップよりも、震災前からの住人とその後の転入者、廃炉関係の作業員とそれ以外、外国人労働者とそれ以外のギャップだと思う。マイノリティが自由に生きていける町をめざしてください。

(8) 健康や老後の暮らしについて

No.	性別	年齢	意見内容
1	女性	60歳代	富岡町の現状は、男女共同という前に、まずは、老人ばかりで町として今後不安ばかりかと、帰って来る人がいないなら、違う考え方で、この町の主となる若い人たちを男女関係なく増やす事の方が大切なのではないのでしょうか。

(9) その他

No.	性別	年齢	意見内容
1	男性	20代	他にもっと考えないといけない問題が富岡町には多くあると思う。
2	女性	年代不明	原発処理が終わった後に人口は減少するため若い子育て世代が増えるようバランスを整えていく。

IV 使用した調査票

富岡町 男女共同参画まちづくり基本計画策定に係るアンケート

～調査ご協力をお願い～

日頃より町政に対してご理解、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

富岡町では、「富岡町男女共同参画まちづくり基本計画」に基づき、男女共同参画社会の実現に向けた取組を進めてきました。このたび、次期計画を策定するにあたり、町民の皆さまの男女共同参画社会づくりに関するお考えや実情などを幅広くお聞きするため、アンケート調査を実施することといたしました。

このアンケートは、住民基本台帳より15歳以上の町民の方1,000人を対象にご協力をお願いするものです。

ご回答いただいた内容は、すべて統計的に処理しますので、回答者が特定されたり、個々の回答内容が漏れることは一切ありません。また、調査目的以外に使用することはありません。

お忙しいところ大変お手数をおかけいたしますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和5年11月 富岡町長 山本 育男

ご回答にあたってのお願い

- できる限り、この調査票が郵送された宛名の方ご本人がお答えください。
- 次の2つのうちどちらか1つの方法で、**11月22日(水)まで**にご回答をお願いします。

1 アンケート用紙(この冊子)に直接記入し、郵送により回答

- ▶ 黒か青のボールペンまたは鉛筆でご記入ください。
- ▶ ご回答は、「1つに○」「○はいくつでも」などの表記に従って、該当する番号に○をつけてください。「その他」に○をつけた場合は、その後の()内に具体的な内容をご記入ください。
- ▶ 質問によっては、回答いただく方が限られる場合がありますので、次にお答えいただく質問番号への案内にご注意ください。
- ▶ ご記入いただきましたら、同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、郵便ポストにご投函ください。

2 パソコン・スマートフォン等によりインターネットで回答

右の二次元コードまたは下記URLより回答画面にアクセスし、「**整理番号(数字5桁)**」をご入力の上、画面の指示に従ってご回答ください。



インターネットでの回答が便利です！

URL https://src2.webcas.net/form/pub/src1/tomioka_danjo

整理番号

99999

※重複回答を防ぐための番号です。個人を特定する番号ではありません

本調査に関するお問い合わせ先

富岡町 教育委員会 生涯学習課

TEL 0240-22-2626

FAX 0240-22-5059

担当：三瓶・小林

1 あなたご自身についておたずねします

問1 あなたの自認する性別について、次の中から1つ選んでください。(1つに○)

- 1 男性 2 女性 3 自由記述 ()

問2 あなたの年齢について、次の中から1つ選んでください。(令和5年11月1日現在)
(1つに○)

- 1 10代 4 40代 7 70代以上
2 20代 5 50代
3 30代 6 60代

問3 あなたの現在の状況について、次の中から1つ選んでください。(1つに○)

- 1 会社員・公務員 5 学生
2 パートタイマー・アルバイト・派遣職員等 6 無職
3 自営業・家族従事者 7 その他 ()
4 家事専業

問4 あなたのお住まいはどの地域ですか。(1つに○)

- 1 富岡町 2 富岡町以外の福島県内 3 福島県外

問5 あなたのご結婚(事実婚を含む)の経験について、次の中から1つ選んでください。
(1つに○)

- 1 未婚 →問5-2へ 3 結婚したが離別・死別 →問5-2へ
2 既婚(事実婚を含む) →問5-1へ

【問5で、「2 既婚(事実婚を含む)」と答えた方にお聞きします】

問5-1 あなたは共働き(自分とパートナーとも収入を得る仕事を持っている)ですか。該当するものを1つ選んでください。(1つに○)

- 1 共働きである 2 共働きでない

【ふたたび、すべての方にお聞きします】

問5-2 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。(1つに○)

- 1 いる 2 いない

2 男女の地位や生き方についておたずねします

問6 あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

(それぞれの項目ごとに、1つに○)

	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない
ア 家庭のなかで	1	2	3	4	5	6
イ 学校のなかで	1	2	3	4	5	6
ウ 職場のなかで	1	2	3	4	5	6
エ 地域活動の場で	1	2	3	4	5	6
オ 社会通念、慣習、しきたりで	1	2	3	4	5	6
カ 法律や制度の面で	1	2	3	4	5	6

問7 あなたの家庭では、次にあげるような家事を、主にどなたが担っていますか。

(それぞれの項目ごとに、1つに○)

※1人暮らしの方は、「6 該当しない」に○をつけてください。→

	主として自分	主としてパートナー	自分とパートナード	家族全員	その他の家族	該当しない
ア 食事のしたく	1	2	3	4	5	6
イ 食事のあと片付け	1	2	3	4	5	6
ウ 掃除	1	2	3	4	5	6
エ 洗濯	1	2	3	4	5	6
オ 家族の介護や看護	1	2	3	4	5	6
カ 地域活動（PTA や町内会活動等）	1	2	3	4	5	6

問8 次にあげた結婚、家庭、離婚に関する考え方について、それぞれあなたのお考えに最も近いものをお選びください。（それぞれの項目ごとに、1つに○）

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
ア 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
イ 女性は結婚したら自分のことより、夫や子どもを中心に考えて生活したほうがよい	1	2	3	4	5
ウ 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない	1	2	3	4	5
エ 一般に、今の社会では離婚すると女性のほうが不利である	1	2	3	4	5
オ 夫婦別姓の結婚が認められてもよい	1	2	3	4	5
カ 同性婚は認められてもよい	1	2	3	4	5

問9 女性及び男性の望ましいと思う生き方はどのような生き方だと思いますか。（それぞれの項目ごとに、1つに○）

	家庭又は個人の生活よりも、仕事に専念する	家庭又は個人の生活にも携わるが、あくまでも仕事を優先させる	家庭又は個人の生活と仕事を同じように両立させる	仕事にも携わるが、家庭又は個人の生活を優先させる	仕事よりも、家庭又は個人の生活に専念する	わからない
ア 男性の生き方	1	2	3	4	5	6
イ 女性の生き方	1	2	3	4	5	6

3 子育て・教育についておたずねします

問 10 子育てについて、あなたのご意見に近いものはどれですか。

(それぞれの項目ごとに、1つに○)

※お子さんがいらっしゃる方は、お子さんがいるという想定でお答えください。

	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い
ア 母親は育児に専念したほうがよい	1	2	3	4	5
イ 子どもの世話は、父親にもできる	1	2	3	4	5
ウ 男の子は家事ができるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
エ 女の子は家事ができるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
オ 男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
カ 女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
キ 必要であれば、子育て支援サービスを受けて子育てをしてもよい	1	2	3	4	5

問 11 あなたのお子さんには、どの程度の教育を受けさせたいと思いますか。

(それぞれの項目ごとに、1つに○)

※お子さんがいらっしゃる方、お子さんが既に学校を終えられた方も、ご自分に女の子と男の子がいると仮定してお答えください。

	中 学 校	高 等 学 校	各 種 専 門 学 校 ・ 専 修 学 校	短 期 大 学	大 学	大 学 院	そ の 他 ()	わ か ら な い
ア 女の子の場合	1	2	3	4	5	6	7	8
イ 男の子の場合	1	2	3	4	5	6	7	8

※「7 その他」を選択の場合、()内に具体的な内容をお書きください

5 仕事と私生活についておたずねします

【問3で、現在働いている（「1」～「3」のいずれか）と答えた方にお聞きします】

※現在働いていない方は、問15にお進みください

問14 あなたの働いているところ（自営業を含む）では、仕事の内容や待遇面等で、女性と男性は平等だと思いますか。（それぞれの項目ごとに、1つに○）

	男性の方が優遇 されている	平等だと思う	女性の方が優遇 されている	わからない
ア 採用時の条件	1	2	3	4
イ 賃金	1	2	3	4
ウ 昇進、昇格	1	2	3	4
エ 能力評価	1	2	3	4
オ 責任のある仕事の分担	1	2	3	4
カ 教育、研修の内容や機会	1	2	3	4
キ 育児休業、介護休業の取得	1	2	3	4
ク 労働時間	1	2	3	4

【ふたたび、すべての方にお聞きします】

問15 仕事と生活について、あなた自身の考え方（理想）と現実（現状）についてもっとも近いものを教えてください。（それぞれの項目ごとに、1つに○）

	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」を 両立	「仕事」と「個人の生活」を 両立	「家庭生活」と「個人の生 活」を両立	「仕事」と「家庭生活」と「個 人の生活」を両立
ア 考え方（理想）	1	2	3	4	5	6	7
イ 現実（現状）	1	2	3	4	5	6	7

6 女性の社会進出についておたずねします

問 16 あなたは、女性が職業を持つことについてどう思いますか。次の中からあなたの考え方にもっとも近いものを教えてください。（1つに○）

- 1 職業は一生持ち続けるほうがよい
- 2 社会や職場に工夫や配慮があるのであれば、職業は一生持ち続けるほうがよい
- 3 結婚するまでは、職業を持つほうがよい
- 4 子どもができるまでは、職業を持つほうがよい
- 5 子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再就職するのがよい
- 6 女性は職業を持たないほうがよい
- 7 その他（ ）
- 8 わからない

【問5-2で、お子さんが「いる」と答えた方にお聞きします】

※お子さんがいない方は、問18にお進みください

問 17 お子さんのいる家庭にお聞きします。母親又は父親が育児休業制度を利用なさいましたか。（それぞれの項目ごとに、1つに○）

	利用した	利用しなかったが、利用できなかつた	利用できることを知らず、利用しなかつた	利用する必要がなかつた	働いていなかつた	その他
ア 母親	1	2	3	4	5	6
イ 父親	1	2	3	4	5	6

【ふたたび、すべての方にお聞きします】

問 18 女性が働き続けるために、どのようなことが特に必要だと思いますか。（3つまで○）

- 1 賃金、仕事内容など労働条件面の男女差をなくす
- 2 パート、派遣労働者等の労働条件を改善する
- 3 労働時間短縮、就業時間や有給休暇取得に柔軟性を持たせる
- 4 セクシュアル・ハラスメント※¹やパワー・ハラスメント※²等のない職場をつくる
- 5 研修や職業訓練の機会を確保する
- 6 昇進、昇格の機会を確保する
- 7 女性自身が仕事に対する意欲・能力を高める
- 8 育児・介護休業制度、諸手当を充実する
- 9 公的・民間・企業内の託児施設、託児サービスを充実する
- 10 公的・民間の介護施設、介護サービスを充実する
- 11 育児・介護等で退職した後の再雇用制度を充実する
- 12 家族の理解と協力を得る
- 13 職場の上司や同僚の理解と協力を得る
- 14 家事・育児・介護は女性がするものという社会の意識を改める
- 15 その他（）
- 16 わからない

※1 セクシュアル・ハラスメント：性的嫌がらせ

※2 パワー・ハラスメント：職務上の地位や役職などの優位性を背景に適正な業務の範囲を超えて精神的、身体的苦痛を与えること

問 19 あなたは、自治会長やPTA会長など、女性が政治・経済・地域などの各分野のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

- 1 女性が政治・経済・地域などの各分野のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと
- 2 女性が政治・経済・地域などの各分野のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと
- 3 社会の中で、女性が政治・経済・地域などの各分野のリーダーになることについて、その評価を高めること
- 4 女性が政治・経済・地域などの各分野のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと
- 5 女性が政治・経済・地域などの各分野のリーダーになる割合が一定以上となるような取組を進めること
- 6 その他（）
- 7 特にない
- 8 わからない

問 20 政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに阻害となるものは何だ
といますか。(〇はいくつでも)

- 1 現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと
- 2 女性自身がリーダーになることを希望しないこと
- 3 上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと
- 4 長時間労働の改善が十分ではないこと
- 5 企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること
- 6 保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分でないこと
- 7 保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと
- 8 その他 ()
- 9 特にない
- 10 わからない

7 人権に関することについておたずねします

問 21 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことですか。次の
中から選んでください。(〇はいくつでも)

- 1 売春・買春（いわゆる「援助交際」を含む）
- 2 ポルノ産業や女性の働く風俗営業
- 3 女性のヌード写真などを掲載した雑誌、女性の媚びたポーズなどを使用した広告、
女性の身体を強調したテレビ番組など
- 4 女性の容姿を競うミス・コンテスト
- 5 職場におけるセクシュアル・ハラスメント
- 6 家庭内における夫から妻に対する暴力
- 7 「女流〇〇」「未亡人」のように女性だけに用いられる言葉
- 8 「女は家庭」「女は補助的仕事」など、男女の固定的な役割分担意識や価値観を
押し付けること
- 9 その他 ()
- 10 特にない
- 11 わからない

問 24 配偶者や恋人などからの暴力及び被害者の保護に関して、知っていることをすべて選んでください。（○はいくつでも）

- 1 被害者の相談窓口がある
- 2 被害者が加害者から逃れるため、一時的に安全な場所に保護してもらえる
- 3 被害者が利用できる生活保護など制度の情報提供を受けられる
- 4 加害者が被害者に近寄らないようにするよう、裁判所へ申し立てることができる
- 5 一般の人が被害者を発見したときには、通報するよう努めなければならない
- 6 加害者の相談窓口がある
- 7 何も知らなかった（この調査で初めて知った）

9 性的マイノリティ※についておたずねします

※ 性的マイノリティ（または LGBT 等）：恋愛対象が同性や両性の方、こころの性とからだの性が一致しない、あるいはこころの性がはっきりしないなどといった人々を広く表す総称のこと。「セクシュアルマイノリティ」「性的少数者」などと呼ばれることもあります。
性的マイノリティを表す言葉の1つとして、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字をとった「LGBT」が使われることもありますが、それ以外にもクエスチョニング（性を決められない、決めていない）など、様々な性のあり方があります。

問 25 あなたは、性的マイノリティ（または LGBT 等）という言葉を知っていますか。

（1つに○）

- 1 はい
- 2 いいえ

問 26 あなたは、今までに自分の体の性、心の性または性的指向に悩んだことがありますか。

（1つに○）

- 1 はい
- 2 いいえ

問 27 現在、性的マイノリティ（または LGBT 等）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。（1つに○）

- | | | | |
|------------------|-----------|----------|---------|
| 1 そう思う | } →問 28 へ | 4 そう思わない | →問 29 へ |
| 2 どちらかといえばそう思う | | 5 わからない | →問 29 へ |
| 3 どちらかといえばそう思わない | →問 29 へ | | |

【問 27 で、「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

問 28 性的マイノリティ（または LGBT 等）の方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。

（〇はいくつでも）

- 1 相談できる窓口の設置
- 2 気持ちや情報を共有できる居場所づくり
- 3 法令の制定や制度の見直し
- 4 行政職員や教職員に対する研修の実施
- 5 企業・地域住民等に対する啓発活動の実施
- 6 幼少期からの教育の充実
- 7 更衣室やトイレ、制服など、男女で区別されているものに対する配慮
- 8 同性同士のパートナーであることを証明する行政の証明書等の発行
- 9 同性同士のパートナーやその家族も、法律上の家族と同等に扱うこと
- 10 その他（）
- 11 必要だとは思わない
- 12 わからない

【ふたたび、すべての方にお聞きします】

問 29 性的マイノリティ（または LGBT 等）の方々が感じている問題と思われるものはどれだと思いますか。（〇はいくつでも）

- 1 就職・職場で不利な扱いを受けること
- 2 経済的に自立していくことが困難なこと
- 3 病院や福祉施設等での看護や介護における処遇が不適切であること
- 4 住宅を容易に借りることができない場合があること
- 5 スポーツ・文化活動や地域活動の参加に支障があること
- 6 セクシュアリティを明かせないことで、精神的負担を被ること
- 7 テレビやインターネットの中で、笑いの素材とされること
- 8 学校や職場でいじめにあう可能性があること
- 9 じろじろ見られたり、避けられたりすること
- 10 交流や交際など、日常生活における不利な扱いを受けること
- 11 異性との交際や結婚を強いられること
- 12 その他（）
- 13 わからない

1 1 男女共同参画社会に向けた取組についておたずねします

問 32 今後、男性が家事・子育て、介護等に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

- 1 男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
- 2 男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
- 3 夫婦や家族間でのコミュニケーションを取ることに
- 4 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること
- 5 社会の中で、男性による家事・育児などについても、その評価を高めること
- 6 男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
- 7 労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのデジタル技術を利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
- 8 男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能研修を行うこと
- 9 男性が家事・育児などを行うための、仲間（ネットワーク）づくりを進めること
- 10 その他（ ）
- 11 特になし
- 12 わからない

問 33 今後、女性が仕事、家庭、育児、介護、地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

- 1 男女の役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改める
- 2 学校教育や生涯学習の場で、男女共同参画についての学習を充実する
- 3 男女ともに、家事、育児などができるようなしつけや教育を推進する
- 4 男性が生活面（衣食住に関すること）で自立できるような能力を身に付ける
- 5 行政や民間、地域社会などにおける政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する
- 6 雇用機会や昇進など、職場における男女の対等な取り扱いを周知徹底する
- 7 労働時間短縮や、育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる
- 8 年功序列、終身雇用等の従来の雇用制度を見直し、再雇用や中途採用枠の拡大など柔軟な制度を普及させる
- 9 パートタイマー、派遣労働者等の労働条件を向上させる
- 10 育児、介護にかかる施設や、家事、育児にかかるサービス等を充実する
- 11 その他（ ）
- 12 特になし
- 13 わからない

問 34 男女共同参画社会を形成していくために、富岡町は今後どのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。（5つまで○）

- | | | |
|----|---|--|
| 1 | 家庭における男女の役割分担意識を見直しする啓発活動 | |
| 2 | 地域における男女の役割分担意識を見直しする啓発活動 | |
| 3 | 職場における男女の役割分担意識を見直しする啓発活動 | |
| 4 | 学校教育において性別にかかわらず一人ひとりの個性や多様性を尊重する教育の充実 | |
| 5 | 仕事と家庭の両立ができるよう経営者、事業者に対する啓発活動 | |
| 6 | 子育て支援（保育サービス含む）や介護支援の充実 | |
| 7 | 各種活動のリーダーとなる女性の養成 | |
| 8 | 男女共同参画を推進するための指導者育成 | |
| 9 | 町の委員会・審議会へ女性の積極的な登用 | |
| 10 | 男女の人権や多様性を尊重した社会づくりの啓発活動 | |
| 11 | 男女の生涯にわたる健康づくりや性と健康をおびやかす問題等への対策 | |
| 12 | 女性や男性の生き方や悩み等に対する相談の場の提供 | |
| 13 | その他（ ） | |
| 14 | 特にない | |
| 15 | わからない | |

問 35 男女共同参画社会の実現に向けて、ご意見、ご要望、アイデア等がありましたら、お聞かせください。

調査はこれで終了です。ご協力ありがとうございました。

お手数をおかけいたしますが、この調査票を、同封いたしました返信用封筒（切手不要）に入れ、

令和5年11月22日（水）までにご投函ください。

なお、このアンケートは「無記名調査」ですので、お名前やご住所の記載は不要です。

富岡町
男女共同参画まちづくり基本計画策定に係るアンケート
調査結果報告書

令和6年3月発行

富岡町 教育委員会 生涯学習課
〒979-1151 双葉郡富岡町大字本岡字王塚622-1
(富岡町文化交流センター学びの森内)
電話 0240-22-2626